

一関市民俗芸能調査報告書

学校における取り組み

令和7年3月

一関市教育委員会

岩手県は「民俗芸能の宝庫」といわれ、多くの芸能が継承されてきました。昭和中期頃からは、県内各地で小・中学校の授業に郷土の芸能を取り入れて運動会などで地域に披露する学校が増えました。その当時から教育における郷土芸能の取り組みは子どもたちがふるさとの誇りを育む時間として、また学校が地域の一員として役割を果たす機会として評価されてきました。

一関市でも令和6年度現在、小学校21校中11校(52%)、中学校14校中6校(43%)で郷土芸能の取り組みが行われており、小学校では県内平均(54%)と同程度、中学校では県内平均の29%よりも多くの学校で取り組まれており、小・中学校をとおして郷土芸能に触れることができる環境にあるといえます。

一方で当市において人口減少への対策は大きな課題であり、学校の適正規模・適正配置に考慮した小・中学校の統合が進められてきました。その過程で学校での郷土芸能の取り組みも変化してきています。地域の文化を学ぶことの重要性が増すなかで各学校におけるこれまでの取り組みを整理し、改めて郷土芸能教育を見直す機会としたいと考え、このたび調査報告書を刊行することとしました。本書が当市のこれからを考える一助になれば幸いです。

令和7年3月

一関市教育委員会

教育長 時枝 直樹

目次

序.....	1	⑧旧涌津小学校.....	30
目次.....	2	⑨旧亥年小学校	
凡例.....	4	⑩旧老松小学校	
調査の経緯.....	5	⑪旧日形小学校.....	31
		⑫旧金沢小学校	
1 寄稿 学校での郷土芸能を考える		大東地域.....	32
「さけられない少子高齢化と民俗芸能の		⑦大原小学校	
継承活動」 平山徹.....	6	⑧猿沢小学校.....	33
「学校が継承する民俗芸能」		⑬旧内野小学校.....	34
千葉信胤.....	9	⑭旧摺沢小学校	
		⑮旧渋民小学校	
2 取り組みのこれまでと現在		⑯旧曾慶小学校.....	35
地図.....	14	⑰旧丑石小学校	
年表.....	16	⑱興田小学校	
学校へのアンケート調査.....	20	⑲旧天狗田小学校.....	36
各校での取り組み(小学校).....	21	⑳旧京津畑小学校	
一関地域		㉑旧猿沢小学校峠分校	
①中里小学校		千厩地域.....	37
②滝沢小学校.....	22	㉒千厩小学校	
③弥栄小学校.....	23	㉓旧小梨小学校	
④萩荘小学校.....	24	㉔旧清田小学校	
⑤舞川小学校.....	25	㉕旧奥玉小学校.....	38
①旧市野々小学校.....	26	㉖旧磐清水小学校	
②赤萩小学校		東山地域	
③旧山谷小学校.....	27	㉗旧田河津小学校	
④旧日本寺小学校		室根地域.....	39
⑤旧達古袋小学校		⑨室根小学校	
花泉地域.....	28	㉘旧折壁小学校.....	40
⑥花泉小学校		㉙旧上折壁小学校	
⑥花泉小学校.....	29	⑳旧浜横沢小学校	
⑦旧永井小学校		㉚旧津谷川小学校.....	41

⑩旧釘子小学校	
川崎地域.....	42
⑩川崎小学校	
藤沢地域.....	43
⑪黄海小学校	
⑬藤沢小学校.....	44
⑭旧徳田小学校	
⑮旧保呂羽小学校	
⑯旧大籠小学校.....	45
⑰旧新沼小学校	
各校での取り組み(中学校).....	46
一関地域	
①一関東中学校	
①旧真滝中学校	
②旧弥栄中学校	
②萩荘中学校.....	47
③巖美中学校.....	48
④舞川中学校.....	49
③旧中里中学校.....	50
④旧日本寺中学校	
花泉地域.....	51
⑤旧花泉南中学校	
大東地域	
⑥旧猿沢中学校	
室根地域.....	52
⑤室根中学校	
川崎地域.....	53
⑥川崎中学校	
藤沢地域.....	54
⑦藤沢中学校	
⑧旧大籠中学校	

まとめ.....	55
----------	----

3 さまざまな取り組み

旧本寺中学校鶏舞.....	56
千厩小学校での鬼剣舞.....	58
相川小・舞川中学校と舞川鹿子躍.....	60
花泉小学校の新しい鶏舞.....	62

4 資料

岩手県文化スポーツ部文化振興課作成アンケート結果.....	72
藤沢町子ども郷土芸能発表会.....	74
永井小学校着付けの配布プリント.....	78
黄海小学校着付けの配布プリント.....	79
一関東中学校着付けの配布プリント.....	80
萩荘中学校着付けの配布プリント.....	82

参考引用文献.....	84
-------------	----

例 言

1. 本書は、一関市教育委員会が令和6年度までに行った民俗芸能調査(学校における取り組み)の調査報告書である。
2. 調査は、市内の民俗芸能(学校における取り組み)の様子を整理し、データ化することで後世に伝えることを目的として行った。
3. 調査主体は、一関市教育委員会である。
4. 調査体制は以下のとおり。

教育委員会事務局文化財課	副参事兼文化財課長	氏家 克典
	課長補佐兼文化財係長	金野 修
	学芸主査	菅原 孝明
	文化財調査研究員	東 資子

5. 調査期間は、令和6年4月1日から令和7年1月31日である。
6. 本書の作成は文化財課が行い、編集は東が行った。
7. 名称の表記は、伝承はそれぞれの団体などで伝えられているとおりとし、統一はしていない。ただし「とりかぶと」は一般的な「鳥兜」で統一した。
8. 写真は、提供を受けたものはその出典を示した。それ以外のものは一関市教育委員会が撮影したものである。

調査の経緯

小・中学校の統合が繰り返されてきた一関市では、各学校で取り組んでいた郷土芸能の取り組みも変化している。取り組みがなくなった芸能もあるが、一方で芸能を継承してきている学校もある。令和5年(2023)には花泉地域の小学校6校が統合し、新しい花泉小学校が誕生した。それまで各校で行われていた芸能をどのようにするかは当初からの懸案事項であったが、結果的には新しい学校と各保存会の協力によって新しい芸能が生まれることになった。

統合が一段落したこの時期に、これまでの各学校における郷土芸能の取り組みについて振り返り、記録しておくことが必要であると考え、改めて調査を行った。調査は、令和6年度(2024)に行った小・中学校へのアンケート、民俗芸能団体へのアンケートと聞き取り、また平成期末から継続して行ってきた各学校での調査、そして学校記念誌等の文献によった。

当時を知る人が少なくなる中で十分な調査が行えなかったため、不明な点も多いが、これを機会に情報が寄せられることを期待している。

なお、地域の生活の中で伝承されてきた芸能を、昭和50年(1975)の文化財保護法の改正以降、文化財行政では一般に「民俗芸能」と呼ぶが、本報告書では各学校で取り組んでいる芸能を、小さな地域と結びついていることを表し、地域資源としての評価も含む用語である「郷土芸能」と呼ぶことにする。

さけられない少子高齢化と民俗芸能の 継承活動

岩手県民俗芸能団体協議会副会長、
大船渡市郷土芸能協会会長、赤澤芸能保存会会長

平山 徹

岩手県における郷土芸能と学習教育

小・中学校が芸能を学校教育に取り入れたのは昭和52年(1977)「ゆとりある充実した学校生活の実現」が目標として掲げられ授業時間数の運用に創意工夫を加えることができるようになった文部省(当時)の「学習指導要領」の改定によるという。さらに平成元年(1989)「学習指導要領改定」では「文化と伝統を尊重する態度の育成」が盛り込まれ、より民俗芸能への注目が集まっていった。

岩手県は「民俗芸能の宝庫」といわれており、県内市町村立の小学校241校(回答のあった学校数)中129校(54%)、中学校130校(回答のあった学校数)のうち38校(29%)で学校教育の中で民俗芸能に取り組んでいる。(岩手県文化スポーツ部文化振興課令和6年度調査より)

近年、全国的な人口の減少による少子化が進み民俗芸能の担い手は少子化とともに現役舞手の高齢化も顕著で取り巻く環境は厳しいものがあ

る。そうした中、子どもたちに芸能に関心を持ってもらうことがしいては後継者育成と健全育成にも貢献できるものである。

大船渡市では、現在小学校では5校(全11校)、中学校では2校(全4校)が民俗芸能に取り組んでいる。私が指導に関わっている大船渡市立大船渡北小学校と大船渡市立大船渡中学校について実際の取り組み例を紹介してみたい。

大船渡北小学校と赤澤鎧剣舞の絆

大船渡北小学校は大船渡町赤沢地区にあり、その地元には古くから伝承されている赤澤鎧剣舞(昭和44年大船渡市無形民俗文化財指定)があり、赤澤芸能保存会が継承している。

小学校と赤澤芸能保存会とのご縁は昭和50年代後半に始まる。毎年の卒業行事である「六年生を送る会」に際し、何か思い出となるような新しいこと(それまでは合唱・演劇などだった)を創りたいと思案を巡らし、先生方から郷土芸能を取り入れたらとの提案があったという。地元で鎧剣舞が伝承されていることがわかり、保存会に相談がされ、5年生の担任先生方への指導が始まった。一週間程の稽古のあと、担任の先生から児童は教えられ、最後の手直しの総合練習を保存会が行い、本番を迎えたのである。



大船渡北小学校運動会

筆者提供



大船渡北小学校練習

筆者提供

その後、昭和60年(1985)に運動会に鎧剣舞が取り入れられる。練習が始まる前には鎧剣舞の歴史や由来などの学習会を開催して知識を習得したのち、授業時間に稽古が行われた。最初の年の6年生は3クラスの114名であり、男子58名のみが鎧剣舞を踊り、女子は組体操の集団演技であった。児童は太刀や尻伽(尻当て)にライオンやシカ・鷲など思い思いの絵を描き自分たちで作成し、平家の武将に成りきり、勇壮に踊った。保存会は指導はもちろん、運動会当日には胴取り(太鼓)・笛の囃子方の生演奏で子どもたちの踊りを後方から鼓舞し、大群舞の勇壮な発表となった。

現在まで継承している運動会の鎧剣舞であるが、継続に黄色点灯が灯る時があった。それはあの未曾有の東日本大震災である。平成23年(2011)3月11日午後2時46分に襲った長く大きな揺れ、そしてほどなく襲来した津波が家屋、車、人など街ごと飲み込みこみ、その後の引き潮がありとあらゆるものを海中へ引き込んでいった。被災をまぬがれた北小学校の体育館や校庭は一時避難場所となり、その後校庭には仮設住宅が建ち並んでいった。その年の新生徒は卒業するまで校庭は使用できなかったのである。運動会は大船渡小学校の校庭を借用して開催し、平成29年(2017)5月ようやく7年ぶりに北小学校で

大運動会を行い、恒例の鎧剣舞も披露できた。

「郷土芸能部」と「唐獅子会」の誕生

そうした中、地元の郷土芸能を学習し、先生以外の大人とのコミュニケーションの場を作ることに、子供の健全育成に貢献できると考え、小学校の校長先生たちと協議して小学校の部活動として「郷土芸能部」を平成25年(2013)に創部する。当初は5年生3名でスタートしたが、途中で4～6年生16名の活動となり、その後は毎年20名程度が参加する部活動となっている。令和5年は18名が部員である。岩手県内の小学校で運動会時に郷土芸能を取り入れている学校はあるが、部活動として「郷土芸能」を練習している学校は初めてとの話であった。

その部員の中から鎧剣舞をもっと習いたいという有志が卒業生である中学生と一緒に平成27年(2015)から夜間の稽古を公民館で行うようになった。これを「唐獅子会」と名付け、赤澤芸能保存会会員による指導の下、保存会の中に組み入れて芸能発表会などにも積極的に参加してもらっている。

大船渡中学校文化祭

大船渡中学校では昭和61年(1986)11月の文化祭に大船渡町内の複数の郷土芸能を踊る「郷土芸能」部門をスタートする。初年は、一年生は平七福神舞、二年生は赤澤鎧剣舞、三年生は地の森権現舞を踊り、2年後からは笹崎鹿踊りが加わり、生徒達は自分で任意に選択して民俗芸能を学習するようになる。

まず稽古前に全校生徒が参加する郷土芸能学習会が開催される。四つの民俗芸能の代表者が



唐獅子会

筆者提供

講師を務め、芸能の由来を説明して文化祭での発表の意義を確認し、その後生徒が参加する芸能部門を選択するのである。毎年文化祭の一ヶ月前から部活動終了後から夜8時まで稽古がもたれる。教員だけでなく、校長、副校長先生も毎回稽古を訪問し、学校をあげての取り組みとなっているので、生徒にも気合が入る練習である。

東海新報では、このように伝えている。

大中の郷土芸能活動は「荒れる大中」の再生を目指し昭和61年(1986)にスタートした。新生大中を築くためには『生徒の豊かな心を育む教育、生徒に自信と誇りを持たせる文化活動が必要』と教師・PTA、が地域の郷土芸能団体へ指導を要請、各保存会も後継者育成を狙いに全面協力を約束。学校・PTA・地域保存会が一体となる活動体制が固まった。学校教育の一環として郷土芸能継承活動を取り入れたのは気仙では同校が初めてである。

各芸能保存会の指導者たちは子供一人一人に真摯に向き合いその姿には威厳と迫力がある。練習でふざけたり反抗的な態度をとる子供たちはいない。そのような場合には遠慮なく叱る。保存会の人たちは地域においてはそれなりの「大人」

達であり教師の手に余る生徒を任せるにはうってつけの人たちだったのである。また、期限を限った芸能の稽古では発表という目的のために厳しく指導できるので授業とは異なる教育となりえたのである。学校にとって民俗芸能は教育の「良い素材」でありかつ「良い方法」だったのである。また、保存会にとっても学校の指導は地域貢献のみならず後継者育成につながる機会にもなったのである。

かけがえのない民俗芸能と継承の意義

民俗芸能は人々の繋がりを目に見える形で示すことができる貴重な交流文化であり文化財とは芸能継承者にとっては地元の誇りである・・・と学者は話している。文化財とは地元に対する愛着と誇りである。その原点になるのはここにしかない文化、ここにしかない自然であり、未来に対する希望として存在するものなのである。文化・文化財が大きな力を持っていることを行政が大事に受け止め認識してほしい。

若い人たちが郷土芸能の歴史を身近に捉え、その意識が広がれば記憶の継承からの相伝は着実に進むだろうことは確信できる。保存会としても大きな礎として将来継承に明るい灯が若い子供達から教えられるのである。



大船渡中学校文化祭(赤澤鑑剣舞)2014年

学校が継承する民俗芸能

一関市文化財調査委員(民俗)

千葉 信胤

調査・研究の意義

全国各地、その所々に継承されてきた芸能が、様々な形で伝承地の小学校や中学校での学習活動に取り入れられる事例は数多い。その活動の主体は学校(在生を含む)と伝承団体、そして活動を支援する地域住民である。

現在の民俗芸能伝承者の多くが、小・中学校在学中に学校での取り組みを体験されているという現状は、30年前には想像すらできなかった。一関市のみならず、少なくとも岩手県全域で「学校が継承する民俗芸能」の意義・重要性が増し続けていることは言うまでもない。

一関市では、平成26～27年(2014～15)南部神楽の調査を実施した際、学校教育における南部神楽(鶏舞)の取り組みについても調査・整理している。今回は学校が継承する全ての民俗芸能を調査対象とした取り組みとなる。

民俗芸能の伝承活動や後継者育成の場が急激に変化し続けている現在、「学校が継承する民俗芸能」の個々のあゆみ(軌跡)に関する情報が収集・整理・共有されることは、活動の主体にある方々が改めてその芸能の価値や継承の意義を問い直す上からも大切なことといえよう。

学校教育と民俗芸能

谷口和也^{*1}によれば、郷土芸能が子どもによる実践をともなって学校教育の中でさかんに取り入れられたのは、1960年代(後半)以降で、その当時「地域に根ざす子どもづくりや地域の教育力の見直しが叫ばれ、地域の文化や歴史を学校教育の中に取り入れた実践が行われるよ

うになった」ことと関係が深かったとみている。そして「現在の郷土芸能をとりいれた学校教育の多くは、1970年代にはじめられたものである。子どもたちは、学校教育の中で地域の人々とふれあい、地域の文化の継承者として育てられるよう、郷土芸能を通したさまざまな活動に参加するようになった。」さらに、「郷土芸能が、教科外活動ではなく、正課の中に取り入れられるようになったのが、1989年の生活科の導入と、2000年前後から段階的に導入された総合的な学習の時間」であり、総合的な学習の時間とともに「音楽の時間に伝統的な楽器の演奏が取り入れられたこと」を本格的導入の要因としている。

清水禎文^{*2}は、岩手県が「郷土芸能を学校教育に取り入れる傾向が強い」として、岩手県郷土芸能教育懇話会による『郷土芸能教育の評価と課題(アンケートの集約)』平成10年(1998)をもとに学習活動の実態を分析し、「岩手県内中学校全220校(当時)のうち何らかの形で郷土芸能を学校教育に取り入れている中学校は94校」に及んでいるとしたうえで、その実施主体・活動場所・指導者、そして教育課程上の位置づけ等を分析しその実態の多様性を指摘しつつ、「平成10年の学習指導要領の改定により、総合的な学習の時間が設けられ、現在では割り当てられる時間は変化していると予想される。しかし、必修教科のなかで伝統芸能教育を実施しているケースも見受けられ、興味深い。」と指摘している。

卯田卓矢^{*3}は「一部の学校で 1970年代ごろ

から始まり、その後、1998年の学習指導要領改定および「総合的な学習の時間」の創設によって各地で採用された」もので、とりわけ「民俗芸能が盛んな東北地方では全校(小・中)の半数ほどの学校が民俗芸能を取り入れている県がある」として岩手県の状況をとりあげ、県内小学校における民俗芸能の導入・実施校が、「約65% (2000年段階)にのぼる」と指摘している。

一般的に岩手県は「民俗芸能の宝庫」といわれ、その種類や伝承団体の数が多い。その継承活動に半数前後の小・中学校が関与していることは全国的に見ても確かに大きな特色であろう。

これらの報告から、学校が民俗(郷土)芸能導入にいたる全国的な傾向とともに岩手県の特異性が垣間見られた。谷口が指摘した1960年代後半以降1970年代における「地域」を主体とした教育・実践活動については後述するが、ここでは研究者の多くが「小学校学習指導要領」の改定や「総合的な学習の時間」の創設・導入といった国の教育政策に動機づけを求めていることに注目しておきたい。

学校での取り組みの経緯

一関市内の学校での取り組みの経緯はどのようなものであったろう。

佐藤丕基^{*4}は、平成の大合併以前に旧一関市域を対象に市内小・中学校での取り組みを略調

査し「神楽の後継者づくり」として紹介している。

佐藤の調査は神楽のみに絞られたものだが、同時期の相川小学校及び舞川中学校において、昭和62年(1987)より鹿子躍の伝承活動が行われていたことを付け加えておきたい。

また、取り組み開始時期等について佐藤の調査は平成27年の「南部神楽調査」と内容が異なるが、いずれにせよ旧市内小・中学校での取り組みの多くが1970年代から80年代(昭和45～62年頃まで)に始まっており、今世紀初頭の「小学校学習指導要領」の改定や「総合的な学習の時間」の導入にともなう取り組みより早い段階で、つまり谷口が説く1970年代以降の「地域を主体とした教育・実践活動」に関連するものが多いことに変わりはない。

また、先の卯田の報告は、「2000年時点で市内36校が民俗芸能を導入し、またその後廃校となった32校のうち21校が活動を実施していた。」というから、後に一関市に編入された7つの町や村の小学校でも相当数の取り組みがあったとみている。

教育振興運動からの視点

岩手県では、昭和40年(1965)から「教育振興運動」という独自の教育運動が展開されているが、この運動と学校が継承する民俗芸能の関わりについて触れておきたい。そもそも岩手県の

【小学校】

	和暦	西暦	対象	開始時師匠	神楽	備考
赤 荻	S49	1974	4年以上	菅原仁三郎	赤荻中条神楽	
達古袋	S49	1974	全学年	阿部長治	達古袋神楽	H10現在の師匠は阿部孝
山 谷	S52	1977	3年以上	佐藤照男他	山 谷 神 楽	※指導者、佐藤利喜、佐藤正志
市野々	S52	1977	全学年	佐藤慶男	市野々神楽	
萩 荘	S58	1983	5年以上	佐藤慶男	市野々神楽	
弥 栄	H2	1990	3年以上	渡辺順司	富 沢 神 楽	

【中学校】

	和暦	西暦	対象	開始時師匠	神楽	備考
真滝	S37	1962	全学年	岩淵恵一	真滝神楽	※H10現在、師匠交渉中
萩荘	S46	1971	全学年	佐藤慶男	市野々神楽	
弥栄	S51	1976	全学年	高橋茂	富沢神楽	H10現在の師匠は佐藤登
中里	S56	1981	全学年	吉田孝志	中里神楽	
巖美	S63	1988	全学年	佐藤浩	巖美神楽	
本寺	S63	1988	全学年	佐藤勲	本寺中学校神楽	

※真滝中が伝承した神楽は牧澤神楽の鶏舞が基になっている。(千葉注)

佐藤丕基「一関地方の神楽(南部神楽)」より

教育振興運動というのは、昭和36年(1961)に行われた「全国中学校一斉学力調査」の結果が全国最下位だったことを契機に、児童生徒の「学力向上」を目的にはじめられた。子ども・親・教師(学校)・地域・行政の5者が連携し、学力向上とともに健全育成・健康安全を推進する実践活動の取り組みであった。それが1970年代半ば以降から青少年の「健全育成」・「社会参加」に重点が移行した。高度経済成長後の、子どもを取り巻く社会状況の変化によるものであろう。

そのころから実践の内容として、自然体験・ボランティア・世代間交流などとともに「郷土芸能の伝承」が奨励されるようになった。つまり県では学校・公民館・地域PTAなどによる「青少年の郷土芸能伝承活動」を教育振興運動の実践活動として評価し支援していたのである。県内の学校における芸能伝承活動と教育振興運動の関係については、今後より詳細な調査が必要である。ここでは指摘するにとどめておく。

学校統廃合の影響

一関市では、平成17年(2005)にはじまる大合併に前後して小・中学校の統廃合が急激に進められた。平成7年(1995)に66校あった小学校は平成25年(2013)には36校、そして令和6年

(2024)には21校まで減少している。中学校については、合併前に21校を数えたが、平成30年には16校、現在は14校である。

先述のとおり、卯田の調査によれば平成12年(2000)時点で36小学校が民俗芸能を導入していたが、令和6年(2024)現在の一関市内小学校における民俗芸能伝承の取り組みは21の小学校のうち11校である。四半世紀にわたって進められた学校統廃合が民俗芸能継承の関係に大きな影響を及ぼしていることは自明である。卯田は、「統廃合後の学校の活動状況をみると、主に統廃合に伴い各校いずれの活動も停止した学校、いずれかの活動が存続した学校、いずれの活動も存続した学校のパターン」が確認できるという。また、「学校と民俗芸能を扱った既往研究は両者の関係を静態的に捉えることが多く、動態的すなわち統廃合や制度転換等によって取り組みがいかに変化したのか、またその変化に地域的差異はあるのかなどについては十分に検討されていない。」としている。今回一関市が行った「調査」の持つ意義もそこにあるといえよう。

学校にとっての教育的意義

また卯田は、「過疎化が進行し、民俗芸能の継承が困難な地域では学校活動が後継者育成の

重要な機会になるとして大きな期待が寄せられている」ことをあげつつ、「学校教育において民俗芸能の導入が重視される背景には、第一に地域学習としての教育的意義、第二に民俗芸能の後継者育成」と整理し、学校と伝承団体双方の意義に差異がある事を指摘している。なお、一関市による「南部神楽調査」^{*5}で主任調査員をつとめた橋本裕之によれば、小・中学における南部神楽継承の取り組みは、①地域学習の教材として取り組んでいる「地域学習の教材」、②児童生徒を後継者に位置付けたいという「保存会の思惑」、③そして①と②の混成である「ハイブリッド」の三つに分類できるとしている。

ここでは、取り組みが学校主導で、明確に地域学習の教育的意義を持ち、教材としてスタートした事例を三つ紹介したい。

・真滝中学校の鶏舞

真滝中学校(現一関東中学校)の「鶏舞」は、おそらく一関市内で継承活動の取り組みでは最も早かった事例であろう。『野の人 蜂谷静夫』蜂谷艸平^{*6}によれば、昭和37年(1962)地元出身で当時校長をつとめていた蜂谷静夫の主導により体育の課外授業として取り入れたのが始めであった。敗戦直後、復員した当地の若者らが伝統の牧澤神楽を復興する姿に触れていた蜂谷校長は、「生徒たちに郷土に対する誇りと愛着を持たせ、仲間意識とやりがいを生み出すにはどうしたらよいか」と思案し、「鶏舞」導入に至ったという。運動会での発表をめざし、放課後に師匠を招いて取り組んだのが始まりで、後には運動会だけでなく、体育ほかの正課にも取り入れられた。

一関地方で郷土芸能が学校の教育の場に取り上げられ教育現場に普及し、特色ある学校づくりの先駆けになったとしている。また、学校教育に取り入れた意義として、「生徒の組織的な活動を通してやる気を作り出すこと」だけでなく、その取り組みによって「PTA活動がさかんになり、活動のための親の組織ができ、衣裳や

道具をそろえるために、資金集めや労力の奉仕活動等にあたり、活動の維持にあたる」など、様々な波及効果(発展)と結びついたことを指摘している。地域の協力支援活動は民俗芸能継承に取り組む学校に共通してみられる現象として注目されよう。

真滝中学校は平成20年(2008)に統合となり、現在は同敷地に一関東中学校が新設されているが、「鶏舞」の取り組みは今も引き継がれている。

・本寺中学校神楽

『本寺地区神楽の歴史』芳賀哲夫^{*7}は、昭和62年(1987)から始まった本寺中学校での神楽伝承いわゆる「本寺中学校神楽」の取り組み経緯を学校教員の側から記して重要である。それによると取り組みの直接の契機は、「岩手県へき地教育研究大会」の会場校としての「アトラクション披露」のための取り組みで、それも担当であった芳賀(学校側)から伝承者への強い働きかけによるものだったと回想している。その取り組みが本寺地区の運動会での発表やその後30年にわたる継承活動に結びついた。本寺中学校は平成30年(2018)厳美中学校に統合し、学校としての「本寺中学校神楽」はそこで終わったが、現在は卒業生らによって地域活動として継承されている。

・舞川中学校の鹿子躍

舞川中学校における鹿子躍の取り組みは、昭和62年(1987)公民館主催の「中学生によるふるさと学習」がきっかけだった。『行山流鹿子踊り中興三十五周年記念誌』(1991)によれば、聞き取り調査で鹿子躍に興味を持った生徒らが、教師に相談し学校側から伝承団体に要請して始まったものだった。公民館(社会教育施設)による「ふるさと学習」(青少年の社会参加活動)が橋渡しとなっていることも注目される。舞川地区では中学校のみならず小学校においても鹿子躍と神楽の伝承に取り組んでいるが、それらも含め基本的には学校側からの求めに応じたことだった。

この子らに伝え

久保田裕道^{※8}は、「民俗芸能は変化するものであり、文化財的価値観からいえば、歴史的な重層性こそ価値があるとされがちなのだが、本来はそうではない。」と説く。民俗芸能を対象とした「無形民俗文化財」は、「生活の推移を示すもの」であればよく、「歴史ある民俗芸能だから素晴らしい」という日本国内の価値観と「それがいかにして現代に生かされているのか」という世界的な価値観を並立するものとして捉えながら、「古さや真正性を求めることは、継承者のモチベーション維持の手段でもあり、民俗芸能の継承に必要」であり、「こうした意識を持つ人が多いということは、日本がもっと誇ってもいいこと」と指摘する。そのうえで民俗芸能が衰退に向かう現在、「そこに携わることでできる人材を育てることが最優先の課題」であり、人材育成・後継者育成が喫緊の課題と警鐘を鳴らしている。

学校が継承する民俗芸能には、克服すべき課題以上に将来への希望が託されているのである。「郷土芸能を支えているものは何か。それは、おおかたの愛惜と地域の理解である。この芸能をなくしてはおれない、という切実な思いがなければ伝承は続かない。」一関地方の民俗芸能に精通しその後継者育成に半生を尽くした村上護朗の言葉を重く受け止めたい。



一関東中学校(旧真滝中学校)の『鶏舞』記念像
真滝中学校創立30周年を記念して建立された。
制作は、当時美術担当教諭の金野魁夫氏。
部分的に欠損があり修復がのぞまれる。

筆者提供

- ※1 『教育ネットワーク研究室年報』2005 東北大学大学院教育学研究科
「研究報告1 学び・学校・地域社会の再生プログラム—伝統文化の伝承を軸として—」
生田久美子・中島信博・北村勝郎・谷口和也・清水禎文
- ※2 ※1と同一報告
- ※3 『日本地理学会秋季学術大会発表要旨』2016 日本地理学会
「小学校における民俗芸能の継承活動と学校統廃合—岩手県一関市を事例として—」卯田卓也
- ※4 『一関地方の民俗芸能 郷土の文化シリーズNo.26』1998 一関市教育研究所
「一関地方の神楽(南部神楽)」佐藤丕基
- ※5 『岩手県一関市文化財調査報告書第5集 南部神楽調査報告書』2016
一関市教育委員会「地域社会に埋め込まれた南部神楽」橋本裕之
- ※6 『野の人 蜂谷静夫』1995 本の森 蜂谷艸平 による
- ※7 『本寺地区神楽の歴史』1992 郷土芸能(神楽)を推進する会 芳賀哲夫 による
- ※8 『市政』2024年1月号 全国市長会 「民俗芸能が変わるとき」久保田裕道

一関市内小・中学校での郷土芸能の取り組みのこれまで

①～⑪ 現在取り組みがある小学校
①～⑺ 過去に組みがあった小学校

①～⑥ 現在取り組みがある中学校
①～③ 過去に組みがあった中学校

平泉町

④ 旧本寺中学校

④ 旧本寺小学校

③ 旧山谷小学校

③ 旧中里中学校

③ 巖美中学校

① 中里小学校

⑤ 達古袋小学校

② 赤荻小学校

④ 萩荘小学校

② 萩荘中学校

① 旧市野々小学校

栗原市

奥州市 でと 現在 (地図)



※郷土芸能の取り組みがあった学校のみを表示しています。

[地域]
一関

弥栄小(鶏舞S53～) → H2 弥栄小(鶏舞、太鼓H3～)
平沢小 ↗

- 萩荘小(S57～)
- ① 市野々小(鶏舞S52～)
- 巖美小
- ⑤ 山谷小(鶏舞S52～)

舞草小(鶏舞S62～) → H7 舞川小(鶏舞、鹿踊)
相川小(鹿踊S63～) ↗

花泉

⑦ 永井小(鶏舞S58～) → S60 永井小(鶏舞)
高倉小 ↗

⑧ 涌津小(神楽舞S50頃～) S58 涌津小(鶏舞)

⑨ 亥年小(鶏舞S50頃～)

花泉小 → S43 ③ 花泉小(鶏舞S46～)
花泉小奈良坂分校(鶏舞S?～) ↗

⑫ 金沢小(鶏舞S55～) → S57 金沢小(鶏舞)
刈生沢小 ↗

大東

- 大原小(太鼓H1～)
- ⑬ 内野小(伊勢神楽S55～)

丑石小 → S41 ⑭ 丑石小(伊勢神楽S43頃～、丑石しがくS50～)
丑石小市之通分校 ↗

- 丑石小
- ⑮ 興田小(しがくS50～)
- ⑯ 天狗田小(鶏舞S62～)
- 中川小
- ⑰ 京津畑小(鶏舞S50～)

猿沢小 → S46 猿沢小(伊勢神楽S58～)
⑱ 猿沢小峠分校(山伏神楽S30?～) ↗

千厩

東山

室根

- ⑲ 折壁小(鹿踊S60～、打ちばやしH17～)
- ⑳ 上折壁小(打ちばやしS?～)
- ㉑ 浜横沢小(打ちばやしS50頃)
- ㉒ 津谷川小(打ちばやしS?～)
- ㉓ 釘子小(打ちばやしH3～)

川崎

藤沢

- ㉔ 藤沢小(鶏舞S45～)
- ㉕ 徳田小(田植踊S61～)
- ㉖ 保呂羽小(打ちばやし・鶏舞S50頃～)
- ㉗ 大籠小(鶏舞S50～)

黄海小 → S48 黄海小(鶏舞S63～)
曲田小 ↗

<p>→H17 萩荘小(鶏舞) ↗</p> <p>→H17 巖美小 ↗</p> <p>巖美小 ⑤ 達古袋小(鶏舞S49~) ↗</p> <p>→H25 巖美小 ↗</p> <p>巖美小 ④ 本寺小(よさこいソーランH21~) ↗</p> <p>→H30 巖美小 ↗</p>	<p>② 赤荻小(鶏舞S49~R5) 中里小(鶏舞H26~) 滝沢小(鶏舞H14~)</p> <p>①中里小(鶏舞) ②滝沢小(鶏舞) ③弥栄小(鶏舞、太鼓) ④萩荘小(鶏舞)</p> <p>⑤舞川小(鶏舞、鹿踊)</p>
<p>⑩ 老松小(大黒舞S62~) ⑪ 日形小(太鼓S59~)</p> <p>→H27 老松小(大黒舞) ↗</p> <p>→R5 花泉小(鶏舞R6~) ↗ ↗ ↗</p>	<p>⑥花泉小(鶏舞)</p>
<p>→H22 大原小(太鼓) ↗</p> <p>⑬ 摺沢小(よさこいソーランH10~) ⑭ 渋民小(鶏舞S457~、伊勢神楽S58~) ⑮ 首慶小(鶏舞S44~大東音頭、H10~)</p> <p>→H25年 大東小 ↗ ↗</p> <p>→H18 興田小 ↗ ↗ ↗</p>	<p>⑦大原小(太鼓)</p> <p>⑧猿沢小(伊勢神楽)</p>
<p>⑯ 千厩小(中沢鬼剣舞S40~) ⑰ 小梨小(打ちばやしH19~) ⑱ 清田小(田植踊S52~) ⑲ 奥玉小(打ちばやしS47~、よさこいソーランH24~) ⑳ 磐清水小(鶏舞S50~)</p> <p>→H30 千厩小 ↗ ↗ ↗ ↗</p>	
<p>長坂小 ⑳ 田河津小(鶏舞S47~) 松川小</p> <p>→H26年 東山小 ↗</p>	
<p>→H21 室根東小 ↗</p> <p>→H21 室根西小(打ちばやし) ↗ ↗</p>	<p>→R4 室根小(太鼓) ↗</p> <p>㉑ 室根小(太鼓)</p>
<p>薄衣小(御神楽S58~) 門崎小(御神楽S55~)</p> <p>→H25 川崎小(御神楽) ↗</p>	<p>㉒ 川崎小(御神楽)</p>
<p>→H21 藤沢小(よさこいソーラン) ↗ ↗ ↗</p> <p>⑳ 新沼小(鶏舞S43~) ↗</p> <p>→R5 藤沢小 ↗</p>	<p>㉓ 黄海小(鶏舞)</p>

取り組みのこれまでと現在（中学校）

[地域]
一関

萩荘第一中 → S45 萩荘中(鶏舞)

萩荘第二中(鶏舞S44～) →

巖美中 → S49

達古袋中 →

山谷中 →

花泉

大東

6 猿沢中(峠神楽S44～?、ソーランS60～H5)

室根

折壁中 → S46 室根中(太鼓H19～)

矢越中 →

津谷川中 →

川崎

薄衣中 → S37 川崎中(御神楽S50～)

門崎中 →

藤沢

藤沢中 → S44 7 藤沢中(鶏舞S48～)

八沢中 →

保呂羽中 →

8 大籠中(鶏舞S40頃～) →

山目中

3 中里中(鶏舞S54~)

→ H27 磐井中



1 真滝中(鶏舞S38~)

2 弥栄中(鶏舞S53~)

→ H20



一関東中

1 一関東中(鶏舞)

2 萩荘中(鶏舞)

巖美中(鶏舞S50頃~)

4 本寺中(鶏舞S63~)

→ H30



巖美中(鶏舞)

3 巖美中(鶏舞)

舞川中(鹿踊S62~)

4 舞川中(鹿踊)

花泉北中

5 花泉南中(鶏舞S48~、獅子舞S51~)

→ H17 花泉中



5 室根中(太鼓)

6 川崎中(御神楽)

→ H16 藤沢中

黄海中



学校へのアンケート調査

市内各小・中学校に郷土芸能への取り組みについてのアンケートに協力してもらった。アンケートは以下のとおり実施した。

実 施：令和6年7月

対 象：一関市立小学校21校 中学校14校

実施方法：庁内LAN(ネットワーク)によるアンケート送付

結 果：郷土芸能への取り組みがある小学校11校(52%)、中学校6校(43%)

○取り組みがない学校の意見は以下のようなものであった(抜粋)。

- ・地域の良さを感じる機会になると思うが、複数の学校が統合しているため一つの芸能に特化して取り組むのは難しい。
- ・統合校であり、すべての地区の活動を取り上げられない。
- ・地域には、学校教育に取り込みやすい郷土芸能がないので、実施していない。
- ・指導者の確保ができない。教職員の負担も大きいため取り組むことは難しい。
- ・練習が夜になるため、先生方、保護者、参加生徒の負担が大きい。
- ・学校教育の中では取り組んでいないが地域の祭りに有志が参加している。

各校での取り組み(小学校)

※アンケートをもとに現在の取り組み内容(1～6)を記し、文献や調査による資料からその他を記す。

①～⑩は、現在取り組んでいる小学校

❶～❷は、過去に取り組んだ小学校

一関地域

① 中里小学校

1. 取り組み芸能

鶏舞

2. 指導者

三浦良一氏・三浦博氏(沢田神楽)、
齊藤裕美氏(中里鶏舞踊り隊)

3. 取り組む学年

5～6年生、(1月に4年生に引継ぎ)

4. 取り組み期間

4～5月、1～2月

5. 披露の場

運動会(5月)、感謝の会(2月)

6. 行事参加

(中里鶏舞踊り隊に所属する児童や希望者)

地区民運動会(9月)、地区民文化祭(11月)

統合により中里中学校の「鶏舞」が継承されないことになり、平成25年度(2013)に中里小学校と中里公民館が鶏舞の継承について協議し、「鶏舞指導者育成事業」を実施。受講者たちによって中里鶏舞踊り隊が発足し、平成26年度(2014)から中里鶏舞踊り隊とともに中里中学校生徒も指導して中里小学校での伝承活動が始まった。

4年生は3学期に中里鶏舞踊り隊から「中里の鶏舞」について学習したあとに5～6年生から踊り方を習い、児童の中での継承活動を行っている。



運動会2024年 中里小学校提供



練習2015年

② 滝沢小学校

1. 取り組み芸能……………
鶏舞(牧澤神楽)
2. 指導者……………
牧澤神楽保存会
3. 取り組む学年……………
4～6年生(3年生に引継ぎ)
4. 取り組み期間……………
運動会前(2週間)、3学期
5. 披露の場……………
運動会(5月)引継ぎ(2月)

牧澤神楽は地域(12区)の子供への神楽の指導を行っており、また真滝中学校での鶏舞の取り組みがあり、当時の小野志郎校長が地域学習の機会として牧澤神楽に指導を依頼し、平成14年(2002)から鶏舞を運動会で披露するようになる。当時の指導者は阿部繁行氏、千葉章氏。衣装は真滝中学校のおさがりをもらって使用している。



2024年 滝沢小学校提供



2024年 滝沢小学校提供

③ 弥栄小学校

1.2. 取り組み芸能・指導者……………

鶏舞(富沢神楽)(富沢神楽保存会)、いやさか太鼓(個人と学校で指導)

3. 取り組む学年……………

4～6年生(3年生に引き継ぎ)

鶏舞は、保存会が地域の「蚕養神社」と神楽の関係などを3年生に話をし、6年生から踊りの引継ぎを受ける

4. 取り組み期間……………

前年度の3学期(1月)から

5. 披露の場……………

鶏舞…運動会(5月)

いやさか太鼓…1年生を迎える会(4月)地域の祭り・学習発表会(10月)

6. 行事参加……………

いやさか祭り(弥栄市民センター主催)でのいやさか太鼓披露



いやさか太鼓1997年 いやさか太鼓保存会提供

統合前の弥栄小学校では、弥栄中学校体育館落成記念式典で披露するために昭和53年(1978)から富沢神楽に指導を依頼して鶏舞に取り組んだ。当時の指導者は佐藤登氏ら。昭和57年(1982)の東北新幹線開通祝賀行事には全校生徒で鶏舞



運動会2024年 弥栄小学校提供

を踊ったという。

運動会披露などの取り組みを続け、平成2年(1990)の平沢小学校と統合後も継続して傳承している。現在の指導者は、佐藤徹氏、渡辺篤氏、松平勝男氏。

平沢小学校と統合した平成2年には、千葉一彦校長が新しい学校での取り組みに太鼓を始めたいと考える。PTAに寄付を呼びかけて太鼓をそろえ、小野寺浩之教諭が時の太鼓を学びに行き、学校オリジナルの曲を作り、平成3年(1991)から学校での取り組みを始めた。その取り組みは地域にも広がり、平成5年(1993)には地域で保存会を作り、会長の佐藤泰男氏、事務局小野寺寿徳氏らも学校に行き、生徒とともに太鼓を学んだ。保存会は平成20年(2008)に解散するが、教員によって指導は続き、時の太鼓保存会員でもある金里徹教諭が新しい曲を作るなどして現在まで継承されている。

④ 萩荘小学校

1. 取り組み芸能……………
鶏舞
2. 指導者……………
蘓武博史氏、中村みゆき氏
3. 取り組む学年……………
4～6年生
4. 取り組み期間……………
運動会前(4～5月)、引継ぎ式前(12～3月)
5. 披露の場……………
運動会、引継ぎ式
6. 行事参加……………
有志が地区民運動会などに参加

旧萩荘小学校では昭和57年(1982)から全学年で市野々神楽の鶏舞の指導を受け、PTA組織に鶏舞委員会を作り、衣装を管理するなどした。さらに親たちも運動会で子供と踊るために練習を始めるようになった。新しく赴任する教員を鶏舞で迎え、転任も鶏舞で送る歓送迎会が伝統となった。装束は家族や地域の人が手作りし、鳥兜は萩荘中学校が中心となり親子と一緒に作った。指導には佐藤慶男氏、千葉義徳氏、のちには石川有一氏、中村みゆき氏と教員があたってきた。

近年は萩荘市民センターが鳥兜とりかぶとの作成事業や指導に協力するようになり、小野寺聖悦氏、千葉圭子氏、また地域の蘓武泰雄氏が指導に加わっている。踊りの着付けの動画を児童も共有し、自習できるようにしているという。



教員による指導2015年



運動会2024年 萩荘小学校提供

⑤ 舞川小学校

1.2. 取り組み芸能・指導者 ……………

鶏舞(蓬田神楽)(蓬田神楽保存会)、
鹿子躍(舞川鹿子躍)(舞川鹿子躍保存会)

3. 取り組む学年……………

3～6年生

4. 取り組み期間……………

通年

5. 披露の場……………

学習発表会(10月)

6. 行事参加……………

舞川地区敬老会(9月)、
一関地方伝承芸能交流会(11月)

旧舞草小学校の地元の舞川3区では昭和60年(1985)頃に蓬田神楽が子供への神楽指導を始めており、吾勝神社の宮司でもあった山本亨校長が児童への鶏舞の指導を蓬田神楽の蓬田稔氏に依頼し、昭和62年(1987)から取り組みが始まった。

蓬田氏は児童用に踊りやすくアレンジを加えた鶏舞を教えた。

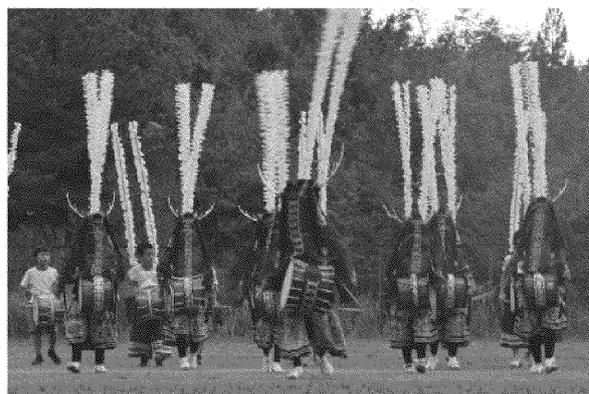
蓬田氏から上級生が教わり、上級生から下級生に指導し、児童全員で期末参観日に地域に披露した。装束も学校で作って運動会で披露するようになった。



舞草小運動会1994年『閉校記念誌もうくさ』より



運動会2024年 舞川小学校提供



運動会2024年 舞川小学校提供

旧相川小学校では昭和63年(1988)から舞川鹿子躍の鹿子躍に取り組んでいた。千葉雅一校長が公民館長と保存会の協力を得て練習に取り組み、5～6年生が運動会で披露した。当時の指導者は小野寺千治氏、千田辰三郎氏、千田和助氏、小野寺清氏ら。

平成7年(1995)に舞川小学校への統合にあたり、舞川小学校は二つの芸能を継承することにした。一時期は学年ごとに鶏舞と鹿子躍を練習した時期もあったが習得するのが難しいため、各地区ごとに鶏舞と鹿子躍を習っている。

現在の鶏舞の指導者は伊藤一氏、佐藤隆志氏、佐藤菜穂氏。鹿子躍は佐藤浩一氏、佐藤麻衣氏など。

毎年引継ぎ式では6年生が3～5年生に踊りを引き継ぎ、指導者たちに感謝を伝えている。

① 旧市野々小学校

昭和44年(1969)に旧萩荘第二中学校で市野々神楽の鶏舞の取り組みが始まり、旧市野々小学校でも昭和52年(1977)から佐藤慶男氏、千葉義徳氏の指導を受けるようになった。運動会や学校外のイベントなどでも披露してきた。平成17年(2005)に萩荘小学校と統合した。



衣装調達記念てめぐい
『市野々小閉校記念誌』より

② 赤萩小学校

昭和49年(1974)から4～6年生が赤萩中条神楽の菅原仁三郎氏に指導を受けて鶏舞に取り組んだ。菅原氏が高齢になり指導ができなくなったが、教員たちが指導を続けた。

平成4年(1992)頃に山谷神楽に入っていた佐々木久氏が当時は赤萩に住んでいたため依頼されて太鼓を叩いて指導に加わるが、踊りの指導は教員が行い、鉦は生徒が受け持った。その後、地域の山田衛氏、熊谷久雄氏、菅原仁志氏らが鉦すりに加わり、運動会での披露を支えた。

平成期は、3年生になると総合学習の時間で鶏舞を練習してホコを作り、4年生からは金管楽と鶏舞のどちらかを選択し、5～6年生がそ



教員による練習2015年

れぞれを運動会で披露していた。

鶏舞は3年生から6年生までの縦割りの組を作り、年間を通して録音のテープを使って練習を行い、6年生が指導して昼休みにも練習していた。運動会と2月の引き継ぎ式のほかに6年生は学習発表会、学習交流館まつり、山目芸能祭、リレーフォーライフイベントにも出演していた。

令和期も新型コロナウイルス感染症対策で活動を休止した時期はあったが、総合的な学習の時間等で6年生が下級生に踊りを教えて学校内で引き継いできた。しかし、佐々木氏らが高齢になり運動会への出演が難しくなり、地域で他の指導者を探したが見つからなかったため、令和5年(2023)の運動会を最後に鶏舞の取り組みを終えることになった。



運動会前練習2015年

③ 旧山谷小学校

昭和52年(1977)、子供たちに神楽を教えてほしいと学校が山谷神楽に依頼し、4～6年生が取り組むことになった。山谷神楽の佐藤照男氏、佐藤利喜氏、佐藤正志氏が学校に行き、みかぐら(鶏舞)のほかに三番叟や岩戸入り、岩戸開き、五代領などを教えた。練習は口唱歌^{くちしょうが}で教えた。運動会や引継ぎで披露した。

平成5年(1993)には地元の笹谷(赤荻)出身

の鈴木仁一校長が企画し、山谷神楽伝授140周年記念の奉納を仙台市の亀岡八幡神社で行い、山谷神楽と共に4～6年生の32人の児童が鶏舞を奉納した。



亀岡八幡神社奉納1993年 佐藤照男氏提供

④ 日本寺小学校

平成20年(2008)の岩手・宮城内陸地震からの復興を目指して翌21年から「よさこいソーラン」に取り組んだ。一関青年会議所のサポートがあったという。

「岩手・宮城伊達っ子隊」として北海道札幌市のよさこいソーラン全国大会にも出場し、毎年本寺小・中学校合同の大運動会で披露した。



『一関市立本寺小学校閉校記念誌ほんでら』より

⑤ 旧達古袋小学校

昭和49年(1974)、これまで同じ校舎にあった達古袋中学校が巖美中学校へ統合するために移動するにあたり、小学校で新しい取り組みとして全学年で地元の達古袋神楽の鶏舞を踊

るようになったという。

達古袋神楽の阿部長治氏が指導し、その後、阿部孝氏、登嶋正治氏、また鹿又利雄氏、小岩恭一が指導した。地区民と小学校が合同で行う運動会で披露していた。



『達古袋』より



運動会 男児に三宝荒神を教えたこともあった
昭和60年頃か『達古袋』より

花泉地域

⑥ 花泉小学校

1. 取り組み芸能……………

鶏舞

2. 指導者……………

花泉小学校に鶏舞を教える会

3. 取り組む学年……………

4～6年生

4. 取り組み期間……………

5月、12月～2月

5. 披露の場……………

運動会(5月)

令和5年(2023)の統合に伴い、阿部良氏に鶏舞指導の依頼があり、旧小学校の鶏舞指導者たちが集まって協議し、新しい鶏舞を創作。指導者たちが鶏舞を習得し、その踊りを子どもたちに教えて令和6年(2024)の運動会から披露を始めた。最初の指導には千葉良夫氏、千葉隆之氏、千葉繁年氏、及川守氏、阿部忠明氏がたった。



練習2024年



運動会2024年

⑥ 花泉小学校(統合前)

昭和46年(1971)頃から奈良坂神楽の鶏舞に取り組んだ。昭和43年(1968)の旧花泉小学校との統合前の旧奈良坂分校では、男子が鶏舞に女子は巫女舞に取り組み、敬老会で披露していた。その鶏舞を引き継いだのは分校生徒への励ましの意味があったと鶏舞を指導していた当時の教諭大峰キサ子氏は語った。

奈良坂神楽は宮城県栗原郡若柳町武鎗(現栗原市)から伝授したといわれ、保存会が指導できなくなると奈良坂神楽鶏舞クラブを作って及川守氏、芳賀紀子氏、阿部ゆうこ氏が指導を続けた。運動会と引継ぎ式で踊っており、指導者が来ない練習では6年生が3年生に教える。太鼓を叩く胴取りがおらず平成初め頃の熊谷賢一氏が叩く太鼓のテープを使っている。

統合を意識しだした平成28年(2016)頃から子供たちを太鼓で踊らせてあげたいとPTAでもある同級生たちで話が進み、後藤佳代氏が牧澤神楽に頼んで何人かで太鼓を習いに行き、歌や踊りを習得して指導にあたるようになった。また、夜に有志に指導する花泉小学校鶏舞教室を定期的に開くようにした。指導者は小野塚智氏、三浦貴史氏、高橋飛鳥氏、佐々木馨氏。

統合後も花泉小学校の鶏舞を指導する教室を継続して開催し、ふるさと学習で取り組んだ花泉高校の生徒らが教室に加わるなどして活発な活動を行っている。



運動会の練習2015年



有志の練習2022年

⑦ 旧永井小学校

旧高倉小学校との統合前の昭和58年(1983)に校長の依頼により永井神楽の千葉忠三氏、千葉勇氏、阿部良氏が鶏舞を指導することになった。1か月間練習して運動会で発表することができたという。

昭和60年(1985)に統合した旧永井小学校でも阿部良氏が指導して鶏舞の取り組みは続き、5~6年生が運動会と敬老会で披露した。創立30周年の平成27年(2015)の記念式典では保護

者も練習して児童と一緒に鶏舞を踊り、運動会でも保護者や卒業生も一緒に鶏舞を踊るようになった。当時の高橋副校長は「統合を意識して地域と連携できる独自の取り組みとして鶏舞を重要視している」と語っていた。



運動会2015年



練習2015年

⑧ 旧涌津小学校

昭和50年代頃は、熊ノ倉神楽の指導を受けて神楽舞を運動会で披露していた。指導者は黒澤盛一氏、佐々木三郎氏、佐々木憲男氏であったが、高齢となり、旧亥年小学校と統合した昭和58年(1983)に亥年小学校で指導していた白浜神楽に鶏舞の指導が依頼された。指導者は千葉良夫氏、千葉繁年氏、千葉隆之氏。最初の年は金沢小学校の鳥兜を借りたが、翌年は花巻市出身の校長が早池峰神楽と同じような鳥兜を作ろうと提案し、教員が遅くまでかかって手作りしたという。

平成末期の練習では運動会前に5～6年生が5回ほど練習を行い、千葉良夫氏らと涌津市民センター職員が毎回出向いて踊り方から隊列まで指導していた。市民センターは学校と指導者の間に入って日程の調整をし、また衣装の助成金応募の窓口になり取り組みを支えていた。



運動会熊倉神楽
『涌津小学校百周年記念誌』より



2015年

⑨ 旧亥年小学校

昭和50年(1975)頃から白浜神楽の千葉良夫氏、千葉繁年氏、千葉隆之氏が運動会で発表する鶏舞を指導していた。昭和58年(1983)の涌津小学校への統合後も鶏舞は継承された。



『亥年小学校閉校記念誌』より

⑩ 旧老松小学校

昭和61年(1986)に小野寺弘氏による大黒舞の指導が始まり、翌年から伝承活動として取り組むようになった。小野寺氏のあとは大黒舞保存会が継承して指導を続けた。4～6年生が取り組み、運動会以外にも有志が御嶽山御嶽神明社の大護摩祈祷火渡祭などで披露した。

平成27年(2015)に旧日形小学校と統合した後も大黒舞を継承したが、日形太鼓も学習活動として取り組んだ。



運動会1990年頃
『老松小140周年記念誌』より



御嶽山御嶽神明社奉納2019年

11 旧日形小学校

昭和59年(1984)の新校舎落成と学校創立110周年を記念して日形太鼓を創設した。当時の教員によって指導されたという。地域でも学校の活動に影響を受けて日形太鼓に取り組むようになり、保存会活動が行われた。

学校では教員と児童によって継承してきたが、平成12年(2000)頃から、PTAの一員で音楽に造詣の深い米倉恵美子氏が指導を引き受けるようになり、運動会、地区民運動会、福祉施設訪問、「ゆずり葉の会(伝承式)」などで4～6年生が活発に発表を行った。NHKラジオの「日本の音」で日形太鼓が取り上げられたこともあったという。



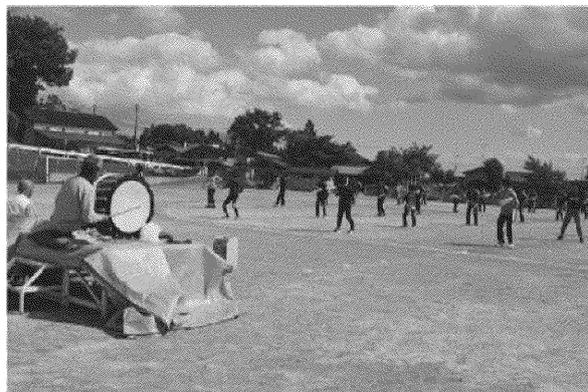
運動会『一関市立日形小学校閉校記念誌』より

12 旧金沢小学校

旧金沢小学校は昭和55年(1980)から大門神楽の鶏舞に取り組んだ。大門神楽の菅原譲氏たちが踊りの編成や振りを児童用にアレンジした鶏舞を作って教えた。

旧刈生沢小学校と統合した昭和57年(1982)から運動会で鶏舞を披露するようになる。その後、小野寺弥氏、菅原力氏が指導を引き継いだ。平成末期頃は小野寺が高齢のために運動会前の前に2回ほど行き、太鼓を叩いて指導したが、ほかの日は教員の指導のもとに録音テープで児童たちは練習していた。

金沢八幡神社大名行列や農業祭、引継ぎ式などでも披露した。



運動会2015年



大名行列での披露2015年

大東地域

⑦ 大原小学校

1. 取り組み芸能……………
しざんせいらいゆう
獅山清流ばやし

2. 指導者……………
大原水かけ祭り保存会

3. 取り組む学年……………
5～6年生

4. 取り組み期間……………
9～10月

5. 披露の場……………
学習発表会(10月)

6. 行事参加……………
PTA行事として大東大原水かけ祭り(2月)の
太鼓山車で演奏する

平成元年(1989)に大東大原水かけ祭りを盛り上げるために太鼓演奏を祭りに追えることにした。保存会で山車を作り獅山清流ばやしを創作、大原小学校5年生に指導して演奏を依頼した。

当初は、囃子を作曲した金野幸富氏が指導、現在は高橋篤氏、及川芳彦氏、中川亮也氏、中川將行氏が指導している。



水かけ祭り太鼓2019年

⑧ 猿沢小学校

1. 取り組み芸能……………
伊勢神楽
2. 指導者……………
下猿沢伊勢神楽保存会
3. 取り組む学年……………
5年生(4年生に引継ぎ)
4. 取り組み期間……………
10月、2月(引継ぎ)
5. 披露の場……………
学習発表会
6. 行事参加……………
地区の敬老会で披露することもある

昭和58年(1983)に当時のPTA会長の発案で下猿沢伊勢神楽の伊勢神楽に取り組むことになり、運動会で4～6年生が披露していた。

新型コロナウイルス感染症対策の期間に運動会での披露を変更して5年生が学習発表会で披露することにした。引継ぎは5年生から4年生へ2月に行う。



学習発表会2024年 猿沢小学校提供



学習発表会練習 2023年



運動会1986年 下猿沢伊勢神楽保存会提供

13 旧内野小学校

昭和55年(1980)から宇津野伊勢神楽の取り組みが始まり、運動会、地区の運動会、芸能発表会などで披露した。7月に1週間程度、保存会が出向いて指導が行われた。

宇津野伊勢神楽は4年に一度開催される大原先陣行列に参加する芸能である。伊勢神楽のほかにも「学校田・畑の耕作体験」や「たたら製鉄」を総合学習活動として行っていた。



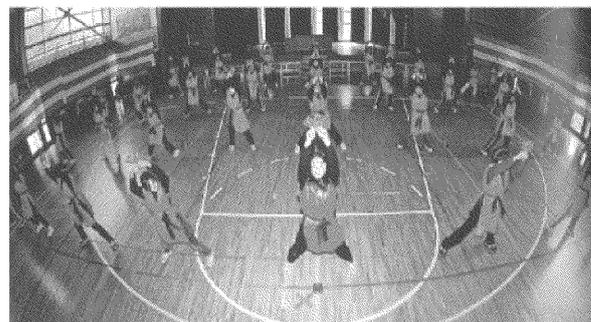
運動会2009年 保存会提供映像より



運動会1985年 保存会提供映像より

14 旧摺沢小学校

平成10年(1998)頃はヨサコイソーランに取り組んでいた。



『摺沢小学校閉校記念誌』より

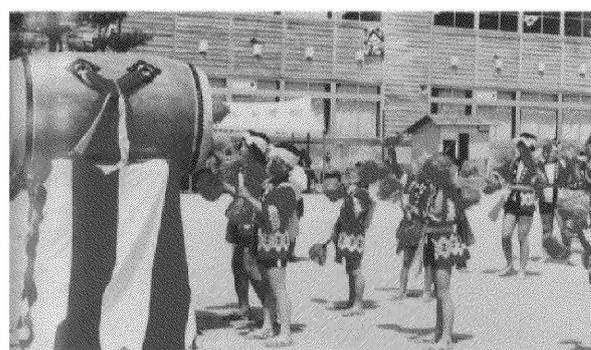
15 旧渋民小学校

昭和45年(1970)頃から渋民地区の神楽から指導を受けて鶏舞に取り組んでいた。

昭和58年(1983)からは渋民伊勢神楽に取り組むようになる。当時、伊勢神楽を復活させた地域の会である「讚互会」にはPTA会員や教員も参加しており、小学校に隣接した公民館で伊勢神楽を練習していたことによるという。

保存会員が一週間ほどの指導を行い、それ以外は上級生から下級生への指導で練習する。演

目はお上り、廻り曲、デンコデンコデン、お下がりであった。当時の指導者は金野鑑太郎氏ら。



運動会1983年 『一関市立渋民小学校閉校記念誌』より

16 曾慶小学校

昭和44年(1969)から曾慶代々神楽の鶏舞に取り組み、佐藤七郎氏、小山高臣氏、菊池友吉氏が指導した。平成4年(1992)には6年生のPTAで鳥兜製作会を開催して鳥兜を作った。鶏舞のほかに神楽の演目「天の岩戸開き」などにも取り組み、平成6年(1994)には岩手県青少年伝



『一関市立曾慶小閉校記念誌』より

統芸能発表会に6年生6名が子供神楽で参加した。

平成10年(1998)頃に指導者の高齢化により神楽への取り組みは中断となり、大東音頭を踊ることになった。



卒業記念1989年『一関市立曾慶小閉校記念誌』より

17 旧丑石小学校

昭和43年(1968)頃に伊勢神楽しかくに取り組んでいたという。丑石神楽しかくの神楽を昭和50年(1975)頃から取り組み、指導者は伊東誠喜氏、伊東昌氏、伊藤光五郎氏、伊藤多蔵氏、伊藤四夫氏であった。



『丑石小学校閉校記念誌』より

18 興田小学校

昭和50年(1975)から丑石神楽しかくに取り組んでいた。



運動会1980年 『興田小学校閉校記念誌』より

19 旧天狗田小学校

昭和62年(1987)、天狗田地区の児童全員(37人)が子供会活動として天狗田神楽の鶏舞を伝承し、天狗田生活改善センターで披露した。

その後、小学校で取り組み、平成5年(1993)の運動会では全児童で披露した。



『天狗田小学校閉校記念誌』より

20 旧京津畑小学校

昭和50年(1975)から京津畑神楽の鶏舞に取り組んでいた。太鼓を小山正夫氏が叩き、菊池正夫氏、菊池照夫氏、菊池茂雄氏が指導した。ただし昭和45年(1970)卒業の児童が学校で夜におかぐらの練習をしていた、と文集に書いているのでそれ以前から子供に教えていたのかもしれない。

平成初め頃までは取り組んでいたという。



運動会昭和50年頃か 京津畑神楽保存会提供

21 旧猿沢小学校峠分校

昭和30年(1955)頃から猿沢神社秋祭りの神輿渡御のお供の神楽しんがくを峠山伏神楽が指導していたが、昭和46年(1971)の統合によって学校では継承されず、地域での指導を行うようになった。



猿沢祭での児童たちの披露 村上護朗氏撮影

千厩地域

22 千厩小学校

昭和40年(1965)から中沢鬼剣舞の指導を受けて「千小鬼剣舞」に取り組んだ。尾形誠一教諭、菊池徳夫教諭などが中沢鬼剣舞の小岩嘉兵衛氏、小岩正志氏らの指導を受けて習得し、それを児童に教えた。運動会で披露したほか、千厩町内のイベントなどで依頼を受けて披露することもあり、昭和45年(1970)の岩手国体の千厩会場でも披露した。(※詳しくは58頁)



運動会1965年 菊池徳夫氏提供

23 旧小梨小学校

平成19年(2007)の小梨小学校統合20周年を記念して打ちばやしに取り組むようになる。

当時は鼓笛隊バンドを運動会で演奏していたが、それに代わるものを探して地域の伝統芸能に取り組むことにしたという。小梨芸能保存会会長と面識があった当時の校長から直接依頼がなされた。

指導者は、伊藤茂三氏、伊藤俊明氏、遠藤孝志氏、伊藤清明氏、遠藤真一氏。



運動会練習2017年

24 旧清田小学校

昭和49年(1974)に有志の活動として清水馬場田植踊り保存会の遠藤猛氏、村上清一氏、小野寺一好氏の指導を受け、昭和50年(1975)に継承発表会を開いた。

昭和52年(1977)頃からは全校生徒が指導を受けて運動会で踊るようになった。「年の始め」「朝ハカ」「オレミロ」「オイトマ」の演目を習っ

た。その後、指導者の高齢化により児童間での継承になり、6年生が3～5年生に指導していた。

平成7年度(1995)の6年生は卒業制作で田植踊りの絵を作成し、体育館に飾ったように田植踊りを学校の伝統として親しんでいた。



1975年『一関市立清田小学校閉校記念誌』より



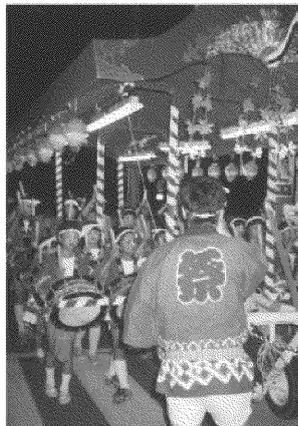
2015年『一関市立清田小学校閉校記念誌』より

25 旧奥玉小学校

千厩町で千厩夏祭りが始まり、その出演のために根山うちばやしに昭和47年(1972)から取り組んだ。根山うちばやし保存会は当初は活動が十分できていなかったために指導に苦勞し、児童と一緒に練習を重ねたという。指導者は藤野文明氏ら。

平成24年(2012)には公民館長の佐藤広徳氏が「奥玉音頭」をヨサコイバージョンに編曲したのでそれで踊ってほしいと学校に依頼し、菊地桂子教諭と保護者でもあるヨサコイチーム

リーダーの及川徹氏の振り付けで作った「奥小YOSAKOIソーラン」に取り組むようになる。



千厩夏祭り出演
根山打ちばやし保存会提供

26 旧磐清水小学校

昭和50年(1975)から濁沼南神楽の小野寺晃氏らが鶏舞を指導していたが、指導者の体調不良により平成6年(1994)から愛宕神楽の鈴木一美氏が指導を代わり、愛宕神楽の鶏舞が指導されていた。

平成16年(2004)に濁沼南神楽の指導を受けた新浪鶏舞保存会の菊地玲子氏らが指導をするようになり、ふたたび濁沼南神楽の鶏舞を運動会、千厩夏祭りなどで披露した。

平成末期には4～6年生が運動会で鶏舞を踊り、全校生徒では磐清水音頭も踊った。

鶏舞は6年生が指導して3年生から練習を始めた。太鼓を叩く人がいないため昔のテープを音源として使用していた。

統合により取り組みはなくなったが、新浪鶏舞保存会は地区の児童とともに新浪神社例祭で巫女舞と鶏舞を奉納していた。



運動会練習2015年

東山地域

27 旧田河津小学校

昭和47年(1972)から夏山神楽の鶏舞に取り組んでいた。夏山神楽の高橋敏一氏が「みかぐら」をアレンジして指導したという。



植樹祭での披露1993年
『田河津小学校創立120周年記念誌』より

室根地域

⑨ 室根小学校

1. 取り組み芸能

むろねっこ太鼓

2. 指導者

上折壁うちばやし保存会

3. 取り組む学年

4～6年生

4. 取り組み期間

運動会前

(3週間程度)引継ぎ式前(2週間程度)

5. 披露の場

運動会(5月)引継ぎ式(12月)

6. 行事参加

(有志)ひこばえの森植樹祭 (6月)

令和4年(2022)の統合前の室根西小学校では「西小太鼓」として上折壁うちばやし保存会から指導を受けて活動していた。室根小学校への統合により新たに「むろねっこ太鼓」としての活動を始めた。



運動会2024年 室根小学校提供



矢越植樹祭2024年 室根小学校提供

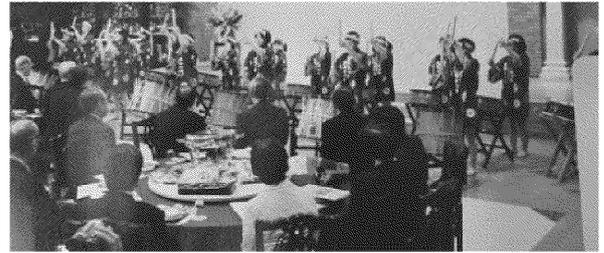
28 旧折壁小学校

昭和60年(1985)に折壁鹿踊りに取り組み、折壁鹿踊保存会の清水忠信氏ら保存会が指導をし、また装束も用意して披露を行った。しかし鹿踊の習得は難しく、取り組みは続かなかったという。

平成17年(2005)に総合学習の時間で打ちばやしに取り組みることになり、小学校4～6年生が南流太鼓の奥野幸市氏の指導を受けた。太鼓は南流太鼓で寄付し、運動会で披露した。

平成21年(2009)の室根東小学校への統合時

には太鼓が引き継がれ、最初の年は打ちばやしの取り組みが継続したが、それ以降はなくなっているという。



『一関市立折壁小学校閉校記念誌』より

29 旧上折壁小学校

旧上折壁小学校では「上小太鼓」として上折壁打ちばやしに取り組んでいた。



『一関市立上折壁小学校閉校記念誌』より

30 旧浜横沢小学校

昭和50年代頃に浜横沢神楽、その後に浜横沢打ちばやしに取り組んでいたという。



『一関市立浜横沢小学校閉校記念誌』より

31 旧津谷川小学校

打ちばやしに取り組んでいた。



2000年『一関市立津谷川小学校閉校記念誌』より

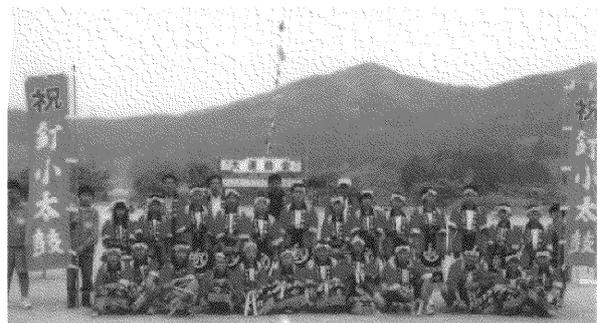
32 旧釘子小学校

平成3年(1991)頃に、教員の提案で運動会での披露する演目をこれまでの鼓笛演奏から地域の打ちばやしに替え、小松森雄氏に指導を依頼した。指導には、三浦泰一郎氏、佐藤留吉氏が加わり、その後は佐藤金雄氏と星亨氏が指導した。

平成21年(2009)に釘子小学校と津谷川小学校が統合した旧室根西小学校で、「西小太鼓」として打ちばやしの取り組みを継承した。



運動会『釘子小学校閉校記念誌』より



運動会2008年『釘子小学校閉校記念誌』より

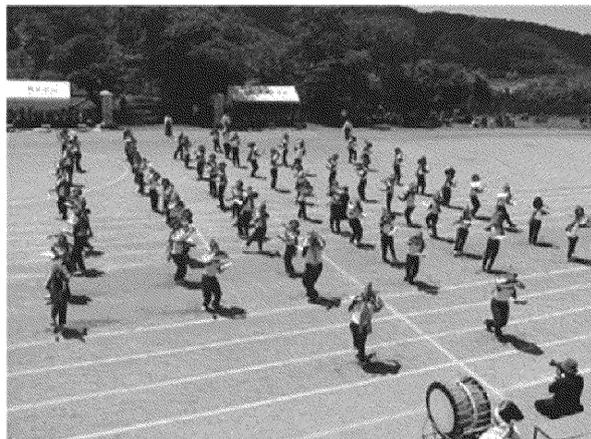
川崎地域

⑩ 川崎小学校

1. 取り組み芸能……………
みかくら
御神楽(布佐神楽)
2. 指導者……………
布佐神楽保存会
3. 取り組む学年……………
4～6年生(3年生に引継ぎ)
4. 取り組み期間……………
4月下旬から運動会まで約3週間、2月に数回
(保存会は5月に2週間程度指導し、それ以外は学校内で行う)
5. 披露の場……………
運動会、6年生を送る会

布佐地域では昭和42年(1967)頃から布佐神楽が男児へ神楽の指導を始めており、昭和52年(1977)には女兒も含めた全員に教えるようになっていたという。

旧門崎小学校では昭和55年(1980)に布佐神楽に依頼して御神楽を指導してもらうようになり、昭和58年(1983)には旧薄衣小学校でも御神楽の指導が始まった。当初はPTAと子供で鳥兜を作り、家にあるものを持ってきて装束に



運動会 川崎小学校提供

していたという。

平成25年(2013)に統合して川崎小学校となっても御神楽は継承された。統合にあたって校長から御神楽の継承が強く働きかけられたという。



練習2020年



『門崎小学校閉校記念誌』より



1985年『一関市立薄衣小学校閉校記念誌』より

藤沢地域

⑪ 黄海小学校

- 1. 取り組み芸能 ……………
鶏舞
- 2. 指導者 ……………
黄海 源大鶏舞継承会
- 3. 取り組む学年……………
4～6年
- 4. 取り組み期間 ……………
5月、12月～2月
- 5. 披露の場 ……………
運動会(5月)、
藤沢町子ども郷土芸能発表会(1月)

黄海小学校では昭和63年(1988)から5～6年生を対象に鶏舞の伝承活動が始まった。当時、活動を始めた黄海神楽から指導を受けていた。

指導者が高齢化したこともあり、平成13年(2001)にPTAで鶏舞支援隊を結成し、子供たちの運動量にあった踊りを作りだそうとPTA会員や教職員がわらび座(秋田県仙北市)へ研修に行き、源大鶏舞を作り上げた。それを児童に指導し、運動会で披露するようになった。平成13年度の藤沢町子ども郷土芸能発表会が初披露であった。現在の指導者は取り組み当初にPTA会長であり、現在の継承会会長の熊谷賢一氏。



運動会2024年 黄海小学校提供



練習(教員が太鼓を打つ)2015年

33 藤沢小学校

昭和45年(1970)に神楽が好きだった松谷徳二市校長と松沢神社神職でもある萩庄脩二教諭が神楽に取り組むことを決め、教員の同級生であった本郷神楽の畠山春男氏が頼まれることになった。畠山氏は教員たちに教え、太鼓の音を録音して渡し、教員が5～6年生に指導した。畠山氏も指導に行ったという。

装束は家族の襦袢や袴を用いて、鳥兜は児童と教員が作った。御幣はすべて畠山氏が切った。昭和56年(1981)には本郷地区で寄付を募り、児童の装束を揃え、「岩戸開き」などのセリフ神楽も指導して発表会で披露した。この発表会が藤沢町子ども郷土芸能発表会へと続く。

平成21年(2009)に統合したのちは、よさこいソーランにも取り組んでいた。

34 旧徳田小学校

昭和61年(1986)に萩庄脩二校長の提案によって地元の徳田田植え踊りに取り組むことになった。松沢神社神職でもある萩庄校長は踊りの本質を稲作の豊作を願う神事として解釈し、物語化して神に祈る場面を加えた演出を行った。当時の教員が吹き込んだ解説テープは現在も使われている。

運動会、藤沢町子ども郷土芸能発表会での披露や慰問にも行っていた。



『藤沢町立徳田小学校閉校記念誌』より

35 旧保呂羽小学校

昭和40年(1965)には国からの教育補助備品で鼓笛隊用楽器一式が配備され、練習を重ねて運動会で披露していた。

昭和50年(1975)頃からは、児童有志が津谷川の指導者に習って打ちばやしに取り組んだ。

また同じ頃から増沢神楽に鶏舞を習い、運動会で披露した。地元の保呂羽神楽には鶏舞の演目がなかったので、増沢神楽に依頼したという。10年間ほどの取り組みであった。

平成期には和太鼓に取り組んだともいう。



学芸会での鶏舞1980年
『藤沢町立保呂羽小学校閉校記念誌』より



打ちばやし『藤沢町立保呂羽小学校閉校記念誌』より

36 旧大籠小学校

昭和50年(1975)にふるさと学習として上大籠神楽(現在休止中)と下大籠神楽の指導による鶏舞の取り組みが開始される。両神楽の師匠と一緒に教えたり、一年ごとに担当したりした。のちには神楽の演目(湊川の合戦)にも取り組んだ。

昭和55年(1980)には藤沢町代表として東磐井郡郷土芸能発表大会に出演し、また昭和60年(1985)頃から藤沢町子ども郷土芸能発表会へも児童有志が出演を続けた。

当初は上大籠神楽の熊谷力夫氏、その後は下大籠南部神楽の高橋義男氏、山田寿氏、須藤克巳氏、須藤徳一氏らが指導した。さらに須藤松雄氏、高橋巳喜男氏、畠山裕一氏、千葉明寛氏らが指導を行った。



運動会2008年 『大籠小学校開校記念誌』より

37 旧新沼小学校

昭和43年(1968)に佐藤正治校長の依頼によって増沢神楽の菅原軍治氏が鶏舞の指導を始め、菅原武美氏が子供たちに踊りやすいよう

にと踊りを改めて教え、以降継承されてきた。

3年生に引き継ぎ運動会では4年生から6年生と応援の中学生も一緒に踊っていた。



2023年 『新沼小学校開校記念誌』より



運動会1973年 『新沼小学校創立百周年記念誌』より

各校での取り組み(中学校)

①～⑥は、現在取り組んでいる中学校、①～③は、過去に取り組んだ中学校

一関地域

① 一関東中学校

1.2. 取り組み芸能・指導者 ……………

鶏舞(牧澤神楽)(牧澤神楽)、

鶏舞(富沢神楽)(富沢神楽保存会)

3. 取り組む学年……………

1～3年生

4. 取り組み期間……………

運動会前1週間前程度

5. 披露の場……………

運動会(5月)

旧真滝中学校で取り組んでいた牧澤神楽の鶏舞と旧弥栄中学校での富沢神楽の鶏舞を平成20年(2008)の統合後もそのまま継承している。

生徒内で継承しているが各保存会も運動会前に指導に行き、当日は太鼓を叩くなどして参加する。現在の指導者は牧澤神楽の阿部繁行氏、吉田聖樹氏、阿部大樹氏、富沢神楽保存会の佐藤徹氏、渡辺篤氏、松平勝男氏ら。



運動会(牧澤神楽鶏舞) 2015年



運動会(富沢神楽鶏舞) 2015年

① 旧真滝中学校

昭和38年(1963)に地元出身の蜂谷静夫校長が地元の郷土芸能に取り組ませようと考え、牧澤神楽に依頼した。体育の課外授業として放課後に全学年が取り組み、後には正課に取り入れられて授業時間にも練習するようになった。当

時は、阿部繁雄氏、岩淵恵一氏、千葉章氏が指導にあたった。翌年39年の東京オリンピック聖火リレー歓迎セレモニーで初披露した。PTAで衣装を揃え、創立30周年記念(昭和52年(1977))には正門前に鶏舞の像を建立した。

② 旧弥栄中学校

旧弥栄中学校体育館の落成式記念式典での披露を機に昭和53年(1978)から富沢神楽の指導を受けて鶏舞の取り組みが始まった。当時の

指導者は佐藤登氏ら。全学年が取り組み、保存会が毎回指導を行い、着付けも指導した。

2 萩荘中学校

1. 取り組み芸能.....
鶏舞
2. 指導者.....
蘓武博史氏
3. 取り組む学年.....
全学年
4. 取り組み期間.....
運動会取組期間
5. 披露の場.....
運動会(5月)
6. 行事参加.....
有志が地域行事へ参加

萩荘第二中学校では昭和44年(1969)から市野々神楽の鶏舞を佐藤慶男氏が指導した。昭和45年(1970)の岩手国体(第25回国民体育大会)の開・閉会式では、佐藤氏が松竹歌劇団と協力してアレンジした創作鶏舞を生徒が踊った。

昭和46年(1971)の統合ののちも「萩荘中学校鶏舞」として体育祭での発表を続けている。昭和52年(1977)岩手県植樹祭、昭和57年(1982)東北新幹線開業祝賀会などに出演した。

平成末期には運動会前の練習5回のうち、佐藤氏の太鼓と合わせたのは1回だけであったが、小学生から鶏舞を踊っている生徒には十分であるという。

「ほこ」は総合学習の時間に生徒で作り、PTAが作った鳥兜を使用していたが、古くなっていたので萩荘地区まちづくり協議会が中学校と協力して作成に取り組み、3年をかけて令和2年(2021)には全校生徒分が新調された。

令和7年(2025)1月には新たに「特設鶏舞部」を創部した。顧問は佐藤渉教諭。



運動会2024年 萩荘中学校提供



運動会 2015年



ふるさと学習2023年

3 巖美中学校

1. 取り組み芸能

巖中鶏舞

2. 指導者

達古袋神楽

3. 取り組む学年

全学年

4. 取り組み期間

通年

5. 披露の場

運動会(5月)、文化祭(10月)、

入学説明会(2月)

6. 行事参加

令和6年度(2024)は、地区・県中文祭(10月、

11月)、骨寺村イベント、他地域からの出演依

頼など

昭和50年代に山谷神楽の佐藤馬之丞が鶏舞を指導していたといい、それを引き継ぎ昭和63年(1988)から山谷の出身者である巖美神楽の佐藤浩氏が指導にあたった。佐藤氏が体調を崩したため、平成16年(2004)からは達古袋神楽の指導が始まった。当初、学校はこれまでの神楽を引き継いだ指導を依頼したが、できないと断られたため、改めて達古袋神楽の鶏舞が依頼されたという。指導には小岩恭一氏、小岩弘征氏、三浦一氏、三浦康子氏、佐藤み糸子氏、阿部千賀氏、阿部和枝氏らがあたった。



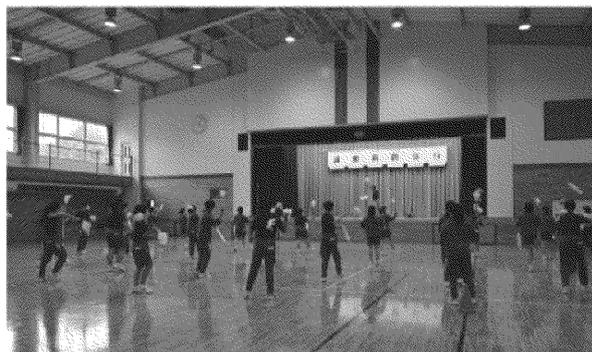
運動会 2024年 巖美中学校提供



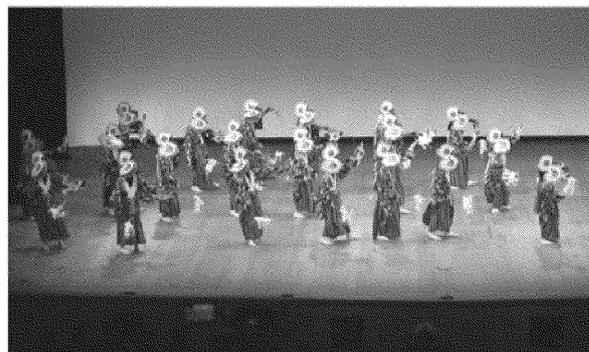
文化祭 2024年 巖美中学校提供



練習2022年



練習2022年



県中文祭 2024年 巖美中学校提供

4 舞川中学校

1. 取り組み芸能……………
行山流舞川鹿子躍
2. 指導者……………
舞川鹿子躍保存会
3. 取り組む学年……………
1～3年の有志
4. 取り組み期間……………
9～11月
5. 披露の場……………
文化祭(10月下旬)
6. 行事参加……………
地区文化祭(11月)

舞川中学校では昭和62年(1987)に「古里研究」として舞川鹿子躍の研究と実際に踊る取り組みを行うことになり、保存会の練習場である公民館に行き、小野寺千治氏たちから指導を受けた。当時の指導者は小野寺千治氏、千田辰三郎氏、千田和助氏、小野寺清氏ら。

以降、1～2年生の有志が取り組み、文化祭での発表を行うようになった。

(※60頁参照)



練習 舞川鹿子躍保存会提供



舞川鹿子躍保存会提供

3 旧中里中学校

昭和54年(1979)から全学年が沢田神楽の吉田孝志氏らの指導で鶏舞を始めた。その後、太鼓を習得して三浦博氏が指導を続け、体育祭などで披露してきた。

学校の行事(運動会、文化祭)のほか、東北新

幹線開業イベントや下ノ橋竣工記念行事など地域の内外で数多く披露してきた。

平成27年(2015)の磐井中学校への統合により取り組みはなくなったが、地域と中里小学校がその鶏舞を継承している。



運動会 『一関市立中里中学校閉校記念誌』より



運動会1981年頃 『一関市立中里中学校閉校記念誌』より

4 旧本寺中学校

昭和63年(1988)から本寺中学校鶏舞に取り組んだ。芳賀哲夫教諭が学校で鶏舞に取り組むために地元の3つの神楽団体(瑞山国首神楽、小猪岡神楽、本寺神楽)のそれぞれの舞を取り入

れた新たな「本寺中学校神楽」を作ることを進め、本寺神楽の佐藤勲氏が太鼓を叩いて指導を担ってきた。

(※詳しくは56頁)



本寺中文化祭2015年



本寺中文化祭2015年

花泉地域

5 旧花泉南中学校

昭和48年(1973)頃に及川勝義教諭の依頼で永井神楽の鶏舞の伝承が始まり、千葉忠三氏、千葉勇氏が指導にあたったが、数年で終わったという。

昭和54年(1979)に学校公開時のアトラクションとして生徒が東永井獅子舞を披露し、昭和61年(1986)頃に校長の要請により東永井獅子舞の取り組みが始まる。青年会で獅子舞に取

り組んでいた阿部良氏、阿部永喜氏、小野寺(現佐々木)孝次氏、佐藤孝志氏、及川清喜氏、佐々木富男氏、木村繁氏が指導にあたった。

平成元年(1989)には宝くじ助成金を受けて用具がそろそろ。それまでは男子だけの活動であったが、平成4年(1992)から女子も参加するようになった。県の民俗芸能フェスティバルや中学校総合文化祭などにも出演した。



『花泉町立花泉南中学校閉校記念誌』より

大東地域

6 旧猿沢中学校

昭和44年(1969)に峠神楽の菅原隆吉氏らが全校生徒に神楽を指導し、運動会で披露した。昭和47年(1972)には岩手県教育委員会が「文化財映画記録」として運動会の神楽を撮影している。

昭和60年(1985)から平成5年(1993)頃までは、和井内京子教諭が進めて「ソーラン節」が取り組まれた。民謡の唄を聞きながら踊るものであった。昭和58年(1983)に大東町内で開催された行事で、当時中学2年生の生徒が「ソーラン節」を披露したことがきっかけだったという。

室根地域

⑤ 室根中学校

1. 取り組み芸能……………
むろね南流太鼓
2. 指導者……………
奥野幸市氏
3. 取り組む学年……………
全学年
4. 取り組み期間……………
6月～11月
5. 披露の場……………
文化祭 室根地区産業文化祭(中文祭)など
6. 行事参加……………
文化祭(11月) 地区中文祭(10月)むろね音楽祭(11月)太鼓フェスティバ(10月)室根町産業文化祭(11月)

平成19年(2007)から学校からの依頼を受けて「むろね南流太鼓」を奥野氏が指導している。毎年11回の練習を行い、文化祭で発表する。そのほかに音楽祭や産業まつりなどにも出演する。令和6年(2024)は室根神社特別大祭の太鼓フェスティバルに出演した。

もとは選択授業の時間に2～3年生が参加していたが、平成28年(2016)から2～3年生の有志が課外で取り組むようになった。令和6年(2024)からは全学年の有志が対象の取り組みになり、生徒の3分の1程度が参加している。その中には地域の打ちばやし団体に参加している生徒もいる。



文化祭 2024年 室根中学校提供



創作太鼓フェスティバル 室根中学校提供

川崎地域

⑥ 川崎中学校

- 1. 取り組み芸能…………… 学校からの依頼を受けて昭和50年(1975) 5月より布佐神楽保存会が御神楽の指導を始めた。
- 布佐神楽
- 2. 指導者…………… 鈴木時男氏らが指導した。当時の「荒れた中学校」への対策の一つであったともいわれている。
- 布佐神楽保存会
- 3. 取り組む学年……………
- 2年生
- 4. 取り組み期間……………
- 1学期1回、2学期6回程度
- 5. 披露の場……………
- 10月下旬の川崎中学校文化祭



2024年 川崎中学校提供



2024年 川崎中学校提供

7 藤沢中学校

昭和48年(1973)に新校舎落成記念行事で全校生徒が増沢神楽の鶏舞を披露し、それ以降毎年運動会で披露するようになった。当時は600人もの生徒が踊るの勇壮な演舞であったという。当時の佐藤正治校長は新沼小学校で鶏舞の取り組みを始めた経緯であり、④学生への指導も増沢神楽の菅原軍治氏と村上繁氏に依頼したという。その後に菅原範美氏(千厩愛宕神楽)が協力する期間もあり、菅原武美氏、村上則雄氏が指導を引き継いだ。運動会前の5回ほどの練習には毎回増沢神楽から複数人が指導に行ったという。



『創立30周年記念誌』より



運動会1987年 『記念誌遂志』より

8 旧大籠中学校

当時の中学校校長と上大籠神楽(現在休止中)の熊谷力夫氏によって昭和40年代に学校での指導が始まった。昭和44年(1969)の旧藤沢中学校への統合により取り組みはなくなった。

一関市内の小・中学校における郷土芸能の 取り組みについてまとめ

【経緯】

- ・早くは昭和 30、40 年代から取り組みが行われたが、多くは昭和 50 年代に始まった。当初は中学校での取り組みが主であり、その後に小学校へも広がっていき、現在は小学校を中心とした取り組みとなっている。
- ・取り組みは、記念事業や教育発表のような行事のために開始されることが多かったが、学校統合をきっかけとして地域文化を見直そうとして始められることもあった。また、岩手国体（昭和 45 年（1970））での披露などのマスコミでの取り上げにより取り組みが認知されていき、「自分たちの学校でも」と考えたともいう。
- ・取り組みは、学校側が教育上の目的のために地域の指導者に依頼して始まっている。何人かの教員が特に主体的な役割を果たしているが、郷土教育や地方における教育振興が議論されていた岩手県の教育界の風潮を背景にしているとも考えられる。

【装束の整備】

- ・取り組みを始めた当初は、装束や道具をそろえるために教員だけでなくPTAや地域の人が協力したという。当時はどの家庭にもあった浴衣や着物、風呂敷、兄弟の制服などが利用された。装束は、各家で保管して兄弟や近所の子供へ引き継いでいった学校や、PTAや地域で資金を集めて購入し、学校で保管して使っていく学校などがある。
- ・装束の着付けやたたんでの保存には保護者たちの手助けが必要とされ、各校では保護者向けに着付け教室を開催したり、プリントを作ったりして協力を依頼している。

【保存会】

- ・市内では南部神楽の鶏舞と打ちばやし、太鼓、田植踊り、鹿踊りなどの芸能に取り組まれている。なかでも多く踊られている。鶏舞は神楽の演目の一つであるが、鶏舞から神楽の演目への興味へは繋がらず、保存会の後継者育成には直接的には貢献していないように見える。しかし、郷土芸能に理解のある人々を育て、そのような人々が多く住む地域環境を作っていることは、芸能の継承に役立っているのかもしれない。
- ・取り組みが長く継続するためには学校側の意思とともに、指導者が高齢になっても次の世代が指導を続けられる組織が整っていることが大切である。

【意義】

- ・児童や生徒は、学校生活を振り返って郷土芸能活動が印象に残っていると文集などで書いており、成長が実感できたことやその芸能への愛着心がわいたことを理由にあげている。また多くの学校で取り入れている上級生が下級生に教えるという伝承の方法は、多くの教員が評価する点である。
- ・学校で取り組むことによって郷土芸能は、地域の人にとっても「地域の芸能」となり、地域をつなぐアイコンの役割を果たすようになってきている。地域の一体感を作ることに学校における郷土芸能の取り組みは貢献している。

【今後の継承】

- ・教員たちの在職期間には限りがあり、また他の職務との兼ね合いの中で郷土芸能活動へ携わることへの負担は大きい。また、指導者にとっても平日の指導は難しく、農家の人であっても春の運動会前は田植え時期と重なるために苦労しているという。そのようななかで、公民館や市民センターが果たしてきた役割は大きいといえる。とくに近年は職員が芸能保存会の会員である例もみられ、よい連携が生まれている。市民センター等に郷土芸能に造詣の深い人材がいれば、新しい学校での指導モデルを作っていくことができると考えられる。

旧本寺中学校

本寺中学校神楽の取り組み

【三つの神楽がある中学校】

昭和59年(1984)芳賀哲夫教諭は本寺中学校に赴任し、地域の歴史を学ぶ中で地域の中に神楽があることを知る。当時は各地の小・中学校が郷土芸能に取り組んでいたため、本寺中学校で神楽をやってみたくと考え、さまざまな人に相談したが、校区の三つの地区にそれぞれの神楽があり、伝統があるため、どれか一つを選ぶことはできないといわれたという。しかし、どの神楽も10年以上前から後継者不足で継承できていない状況でもあった。

【瑞山神楽への取り組み】

昭和62年(1987)に岩手県へき地研究大会が本寺中学校で開かれることになり、そのアトラクションとして三地区の神楽の一つである瑞山神楽を瑞山地区の生徒が習って発表することにした。瑞山神楽のメ切舞が市の指定民俗文化財であることからの選択であったが、他の地区から批判が出ることとなり、また瑞山地区以外の生徒たちも神楽を舞いたいと思うようになったという。

【本寺中学校神楽の誕生】

話し合いの結果、昭和63年(1988)に三つの神楽をそれぞれの地区の子供たちが習うことになり、各地で秋の地区民運動会に向けて夏の暑い時期に練習が重ねられた。9月に中学校の体育館で披露し大きく報道され、評判を得た。

11月には岩手県の教育表彰を本寺中学校が受賞したが、受賞理由の一つには郷土芸能の伝承活動への取り組みがあり、それを根拠として中学校として一つの神楽に取り組むことを目指すように動き出した。

当初は瑞山神楽を全員で習得することに

承を取りまとめていたが、最後になって昼間に指導できないと断られ、最終的に芳賀教諭を代表とした「郷土芸能を推進する会」を作り、三地区の神楽を合わせて一本化することに合意を得た。

小猪岡神楽のネリで始まり、瑞山神楽の舞、本寺の舞を渡り拍子でつなぎ、最後に小猪岡の舞い納めで終わる「本寺中学校神楽」が誕生した。太鼓は本寺神楽の佐藤勲氏が叩き、指導した。

【本寺地区神楽への継承】

以降、中学校で踊り継がれてきたが、平成31年(2019)に統合のために本寺中学校がなくなるとを機に卒業生たちで「本寺地区神楽」として継承し、イベントなどで披露するなどして続けてきている。地元の骨寺村荘園交流館などでのイベントや招待されてのイベントに出演している。太鼓は佐藤氏から本寺地区神楽の代表渋谷ひろの氏が受け継ぎ、叩いている。

芳賀哲夫『本寺地区神楽の歴史』参考



本寺地区神楽決断式2017年

「本寺中学校神楽(鶏舞)に携わって」

神楽指導員 佐藤 勲

『一関市立本寺中学校閉校記念誌 溪流』(平成30年)より抜粋

(前略)生徒が初めて神楽を舞ったのが、昭和62年に「岩手県僻地研究大会」が本校を会場に行われ、そのアトラクションとして瑞山神楽を地域関係者にお願ひし、練習を重ね発表したのが発端でした。もちろん舞うのは瑞山の子供達だけ「当然の様に周囲から大きな批判が出て来たわけで、学校教育の根幹に関わる問題に発展しそうでした。

幾度となくPTAを中心に学校より招集を受けての対応でした。出された打開策の提案は、ただ一つ「一本化」に何とか出来ないものかとの願ひでした。三つの地区が長い間守り続けて来たものだけに理解はむずかしく、話しは、当初に戻ったりの堂々巡りでしかなく次に出されたのが、「それなら小猪岡と本寺でも子供達に教えてくれないか」との願ひとなり、この案であれば、近い将来後継者不足の懸念が少しでも薄れることもあって、早速の取り組みとなったわけです。(中略)

いざ装束の準備です。真夏の蒸し暑い夜でした。父兄が改善センターに招集され、ホールが狭い程に集まって頂いた中で、先生からここに至る迄の経過説明を始めとして、お母さんやおばあさん方には装束縫製のお願ひです。夜の事とて締め切りの部屋は蒸し風呂状態の中、最もむずかしい袴は業者にお願ひするとして、ぬぎ垂れ、身衣、手甲、はち巻、タスキ…。どれの位の時が過ぎただろうか、具体説明後、次第に沈黙が続いた中、私にとって忘れることが出来ないのは、板川の佐々木渡君のおばあさん、サダ子さんからの声でした。「いやぁ皆さんしよ、こんなにも先生達が一生懸命なっているのに俺達も出来るだけ協力することにしたらどうなのっしょ！」の一声でした。この一言でこれ迄の空気が一変し、前に進み出したのでした。この時すでに深夜を過ぎ、時計の針は次にの日を指していました。同じように男性の方からも「男達は錫杖を作ったらどうか」と協力的でした。後になって芳賀先生は、「いやぁ大変な事でした。本当に大変なスタートだった」と。(中略)

一方、神楽指導は地区毎に経験者を中心に練習が始まったのが6月も末に近づいた頃でした。学校行事や学期も通常に行われる中、夜間の練習が連日続きました。この年はとり分け暑さが厳しく、教える方も、教わる方もそれはそれは大変な事でした。(中略)

真新しい装束を身にまとい9月の神楽披露には体育館が一杯になる人達で埋め尽くされ感動的でした。もちろん報道各社も訪れ大きな反響があり、その後も運動会や行事毎のアトラクションとして舞うこととなり拍手喝采を得たことでした。

しかし、ここでまたもや大きな問題が生じていました。それは、いずれの機会でも、時間がある無しに関わらず三つの神楽を舞う事になっていたからです。学校としてこの状態で続けるわけにはいかず、どうしても一本化が求められるに至り、巖美の阿部正榮さんを始め関係者に相談した様でしたが、再び各庭元達等が招集を受け、この事に対しての願ひとなりました。

我々としては、この様な事態になることをわかっていても、何としても纏めたい一念からその場を切り抜ける処方だけで進んで来た結果であるからと、一蹴でした。

その後何度なく連絡があり、何とか何とかの懇願でした。私としても、この状態では将来に遺恨を残してしまう事を案じ、一つの提案をしたわけでした。それは、各地区の舞を三分割し渡り拍手で継ぐ手法でした。指導員の中から、その方法なら技術的に出来るだろうし、現段階では生徒数が50名位もいるが近い将来には少数になってしまう事が確実となるなど想定すると、外には考えられないだろうとの合意を得、やっとの思いで話し合いのテーブルにこぎつけた次第でした。むろん踊る部分の神楽には手を加えず、そのまま取り入れることとして調整し、舞の最初のネリは小猪岡、中を瑞山、後を本寺、そして舞い納めを小猪岡という構成で再出発。全校で練習を重ね、新たに名前も「本寺中学校神楽(鶏舞)」として生まれたのが平成元年でした。(中略)

皆さま方から協力を得、支えられて今日迄来ましたが閉校と共に、寄る年波には勝てなくなりました。幸いにも卒業生の若い有志の連中が「本寺中学校を愛する会」を立ち上げて活動を始めており、他の地区からの出演依頼に張り切っていることも頼もしく感じています。願わくは、これを機会に鶏舞以外の演目にも挑戦し、地域文化継承に向かっていただくことに期待するところです。

千厩小学校

「千小鬼剣舞」の取り組み



【千小ルネッサンス】

昭和40年(1965)当時、千厩小学校は東磐井郡を代表する町の学校としての意気込みがあり、教員たちは熱意にあふれ、「千小ルネッサンスの時代」であったと尾形誠一教諭は記念誌に書いている。

当時30歳代の尾形氏は、運動会ではマ스ゲームをしていたのをもっと特色があることをしたいと思い、中沢鬼剣舞に取り組みたいと考えた。地域にはいくつか神楽があったが、子供には難しいと当時の教員たちは感じていたという。

【千小鬼剣舞の誕生】

保存会は快く引き受けてくれたので5月に5～6年生の教員など7～8人がバイクに分乗するなどして中沢(千厩町千厩)まで10日ほど通い、保存会の熱心な指導を受けた。いくつかある演目の中から子供が取り組みやすいようにアレンジを加えた「八人加護・狂い踊り」を習得し、それを児童に教えた。



1966年 菊池徳夫氏提供

各学年4クラスあり、5～6年生で280人にもなったので、学年ごとに講堂に集めて練習をした。当時は映像を写す機材はなかったので、踊って見せて、保存会に書いてもらった「唱歌」^{しょうが}を歌いながら指導した。嫌がる子供はおらず、みな熱心に取り組んだ。秋の運動会には中沢鬼剣舞保存会員が来て太鼓を叩いてくれ、校庭いっぱいの鬼剣舞を披露することができ、大きな反響を呼んだ。

【手作りの芸能】

装束は、各家でお姉さんの学生服を使って袴代わりのスカートを作った。頭につける「ゼアッコ(ザイ)」は麻紐をボール紙につけ、「スッカ(しっか・大口)」は柄を謄写版で刷って台紙に貼り、児童と教員で作った。当時はまだ草履^{ぞうり}があったので、ワラジではなく草履を履いた。衣装は個人で保管し、他の道具は学校で保存して次の学年に伝えていった。



1966年 菊池徳夫氏提供



1965年 菊池徳夫氏提供

中沢鬼剣舞

中沢鬼剣舞は、昭和29年(1954)の摺沢のお祭りで披露した二子鬼剣舞(北上市)を見た中沢の小岩嘉兵衛氏と小岩正志氏が感銘を受け、二子鬼剣舞の師匠を呼んで半月かけて教えてもらって始めたという。多くの依頼を受けて公演し、評判であったという。小岩嘉兵衛氏が千厩小学校のPTAの役員をしていた時に尾形誠一教諭から依頼があり、喜んで引き受けたのだという。

【千小鬼剣舞の継承】

2年目からは4年生の教諭たちが保存会に通って習い、3学期に一カ月をかけて4年生に教え、3月の6年生を送る会で披露するという定型ができた。太鼓も菊池徳夫教諭が2年目には叩けるようになり、練習でも太鼓を叩きながら指導するようになった。

運動会のほかに千厩町内のイベントなどに依頼を受けて披露することもあり、岩手国体の千厩会場(教員のバスケット)でも披露した。

しかし、平成29年(2017)の千厩夏祭りが最後の披露の場となり、翌年の統合により取り組みはなくなった。

『朝風一関市立千厩小学校閉校記念誌』と菊池徳夫氏(昭和11年生)のお話による

舞川小・中学校の「舞川鹿子躍」の取り組み

(令和6年11月26日の座談会より)

出席者

行山流舞川鹿子躍保存会小野寺重次氏、橋階敏男氏、小岩秀太郎氏、佐藤麻衣氏
(後日、佐藤浩一氏にも話を聞く)

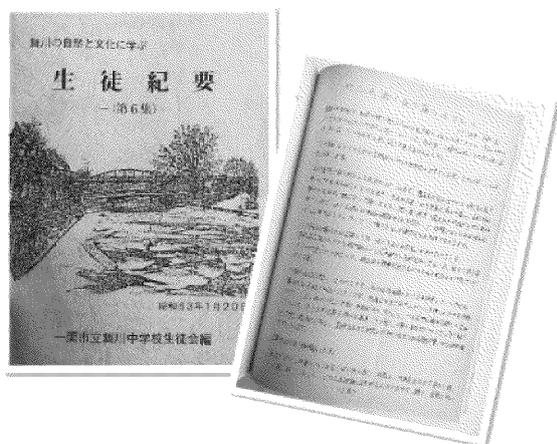


座談会

【舞川中学校での取り組みの始まり】

舞川中学校では昭和38年(1963)頃から地域学習に取り組んできた。昭和62年(1987)、「古里研究」で舞川鹿子躍について調べた生徒の研究を代表としてクラス全員で取り組むことになり、担任教諭の提案により話を聞くだけでなく実際に踊ることになった。

女生徒を含む8人が9月から1か月間、週に数回、保存会の練習場である公民館に行き、口



「行山流舞川鹿子躍りについて」
1年B組佐藤由香氏「生徒紀要(昭和63年1月)」

唱歌を習って当時の保存会長小野寺千治氏たちから指導を受けた。その生徒の一人が現在の保存会長佐藤浩一氏であった。

ササラはクラス全員で作り、保存会の装束や太鼓を借りて文化祭で発表し、大好評を得た。

「毎年したらいいのでは」という意見が多く出たので、翌年からは1～2年生が取り組むようになる。

小岩秀太郎氏は小学生の時に中学校の文化祭で鹿子躍を見て感動したのが、その後の加入のきっかけであったという。

【相川小学校へ】

同じ時期、昭和62年(1987)に相川小学校に赴任した千葉雅一校長は「相川に行ったら鹿子躍をやろう」と決めていたと記念誌には書かれている。吉田耕吾公民館長と保存会の協力を得て翌年の2月から6校目のあとに毎日、3週間にわたって4～5年生が鹿子躍に取り組むことになった。小野寺千治氏、千田辰三郎氏、千田和助氏、小野寺清氏らが学校に行き、指導し、その年の運動会で進級した5～6年生49人が披露した。

小学生用の道具はなかったので、保存会、教員、PTAや舞川地区の住民がみなで協力してトタン板を丸めてそれに肥料袋を張って太鼓を作り、「ささら」は竹に紙を貼って作り、頭をベニヤ板で作った。児童の家では風呂敷を縫い合わせて袴を手作りした。

【師匠たち】

指導は、口唱歌、動き、太鼓の順であった。

当時指導にあたった師匠たちは、物腰がやわらかく丁寧な言葉づかいで教えてくれたという。中学校の生徒たちが練習に行くと「やあ、やあ、どうも、どうも・・では始めましょう」と始まり、終わると「や、や、ご苦労さんでした。では帰りましょうか」と「はるかに先輩の御老人たち」からねぎらいの言葉がかけられ、感銘を受けたと生徒が文集に書いている。

その後、昭和63年(1988)に中学校PTAや地区の協力で「子ども鹿子踊育成会」ができ、中学校で興味を持った生徒などが練習を続けるようになっていった。そこでの指導は学校の時とは違って「おっかなかった」師匠もいたという。

スミエさん

公民館の前に家がある保存会員の小野寺三郎氏の奥さんのスミエさんは、子供たちの練習にいつもジュースやお菓子を用意してくれていて、踊れば褒めてくれ、なにくれとなく世話をしてくれたという。



スミエさんのガンヅキがおいしかった、スミエさんがかわいがってくれた・・と思い出がたくさんあるという。

【地域の文化へ】

舞川鹿子踊保存会は、それ以前から活動していたが、地元で披露する機会は少なかった。しかし、小・中学生が踊るようになると地域の人が多く目にするようになり、「地元の芸能」として認知されていった。

当初から公民館、市民センターが中心となり、地域に披露する機会を作っている。現在も

学校の指導やイベントの開催などに大きな役割をはたしている。



舞川中への指導昭和62年頃

【保存会へのつながり】

舞川鹿子踊には、中学校卒業後の子供が鹿踊りを続ける受け皿として育成会と名付けた場があった。そこで仲間たちと集まっているのが楽しかったと小岩氏は語る。佐藤氏は20代で同世代がいなくなってしまうが、イベント出演などで各地に連れて行ってもらい、これだけ師匠にしっかり教えてもらったのでやめられないと思ったという。

小岩氏は学進学で東京に出るが、イベントなどで舞川鹿子踊が関東に来る機会が何度かあり、そのつど頼まれて出演していたので関係が続いた。そして東京で舞川出身者を中心に東京鹿踊りを設立した。舞川鹿子踊の装束や頭を借りて出演するなどして活動を始め、鹿踊りを広めている。東京で活動したいとを相談した時にも、反対する師匠たちはおらず応援してくれたという。庭元がなく世代を揃えることもしない緩い保存会の体制や新しいことに寛容な師匠たちのありようがよい方向に作用しているとみなは言う。

伝承のヒケツ？

- 1 お菓子▶ジュースやお菓子を用意してくれ、ほめてくれた
- 2 仲間▶仲間と一緒にいるのが楽しかった
- 3 大人▶尊敬できる師匠たちだった

花泉小学校の新しい鶏舞の作成



【統合まで】

令和5年(2023)に統合することが決まった花泉地域の小学校にはそれぞれに郷土芸能などの取り組みがあった。旧永井小学校では永井神楽の鶏舞、旧涌津小学校では白浜神楽の鶏舞、花泉小学校では奈良坂神楽の鶏舞、旧老松小学校では大黒舞、旧日形小学校(先に老松小学校に統合)では日形太鼓、旧金沢小学校では大門神楽の鶏舞である。また油島小学校は詩吟に取り組んでいた。統合の話がささやかれた頃からそれらの郷土芸能をどうするかという事は、多くの人の関心事であった。

令和3年(2021)の地域の校長会に各学校の指導者が呼ばれ、統合後の指導の継続の意思が確認された。鶏舞に取り組んでいた四校が継続を希望し、永井小学校指導者の阿部良氏が代表として学校側との連絡を取ることに決まった。

【新しい花泉小学校】

統合した花泉小学校では翌年の運動会から鶏舞に取り組むことを決め、阿部氏に鶏舞指導を依頼する。阿部氏は旧小学校の鶏舞指導者たちと話し合い、地域内の各鶏舞を組み入れた新しい花泉小学校用の鶏舞を作ることにした。夜に何度も集まり、踊りを創作し、太鼓と神楽歌を合わせ、練習を重ねてそれを習得し、10月から子供たちに指導を始めた。花泉小学校の体育館で児童たちはステージ上で見本を見せる阿部氏の姿をみながら踊りを覚えていった。途中で教員たちからの希望で教員の練習会も開かれ、教員と児童でも練習を重ねた。令和6年

(2024)5月の運動会では運動場いっぱいに広がった4～6年生の244人の児童たちが鶏舞を披露することができた。

【新しい鶏舞作成】

新しい神楽の創作に携わった指導者たちの多くは年配者であったが、各神楽の鶏舞を合わせて新しい神楽を作ることに積極的に取り組んだ。旧小学校でそれまで踊っていた鶏舞がなくなるのは寂しいだろうと児童の気持ちを考へてのことであった。

新しい鶏舞の作成が円滑に行えたのには、いくつかの理由がある。花泉地域には明治期に発足し、大正期から昭和初期まで県内外で公演を依頼された人気をほこった大門神楽があり、昭和53年(1978)に当時の花泉町の文化財指定を受け、現在の花泉地域で唯一の一関市無形民俗文化財の神楽となっている。その大門神楽の鶏舞が金沢小学校では継承されており、また涌津小学校に教えていた白浜神楽の鶏舞は大門神楽から指導を受けた鶏舞であった。そのため、大門神楽の鶏舞をベースにして他の神楽の鶏舞を加えることに他の指導者から合意を得ることができたのである。また、永井神楽や奈良坂神楽は休止しており、そこに所属していた指導者たちも白浜神楽に参加していたため、指導者たちの多くが神楽仲間であった。ただし、統合前の花泉小学校の現在の指導者は平成28年(2016)に新たに作ったPTAの有志の会であり、



苦勞して一から太鼓、歌、踊りを覚えて子供たちへの指導してきた経緯があり、創作に協力はするが指導には加わず、統合前の花泉小学校の鶏舞を指導する教室を継続して独自に活動を続けている。ふるさと学習で取り組んだ花泉高校の生徒らが教室に加わるなどして活発な活動となっている。

【新しい花泉小学校鶏舞】

新しい花泉小学校鶏舞は、各鶏舞がほぼ共通して持っている「舞おさめ」と「わたり」を基本に、統合前の花泉小の「くずしまい」、金沢小と涌津小の「キッタンダンス」、永井小の「ダッツンカラカラ」を配してつないものである。

胴取り(太鼓)の語る「ハイ」や「おもしろやー」を合図に次の動作に入る。

構成

構え

舞い納め 1・2・3・2・4

構え

扇舞い納め 1・2・3・2・4

休憩

くずし [花泉小]

わたり 回転・前進

キッタンダンス [金沢・涌津小]

わたり 回転・前進

ダッツンカラカラ [永井小]

わたり 回転・前進

構え

舞い納め 1・2・3・2

おじぎ



先生方の練習2024年



新しい鶏舞を作成する指導者たち

花泉小学校の新しい鶏舞

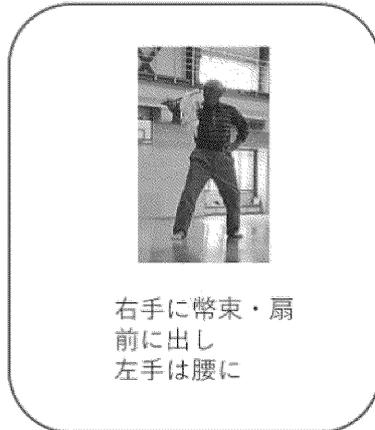
【前奏】



〈太鼓〉 寄せ太鼓

〈歌〉 せんやは～は～・・・
おもしろやほ～

【構え】



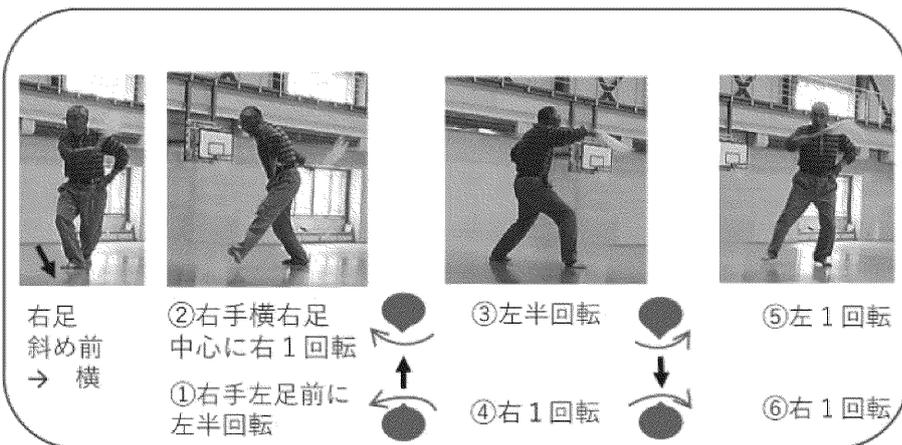
コダッコンダ コダッコンダ
ダガダダガ ダガダダガ
ダガダガダドンダガダ
ダッタガダガダ ドンダガダ
ダガダガスコダッタ
ドンダガスコスコダ

【舞おさめ】 1



せんやは～は～ここはどこほ～

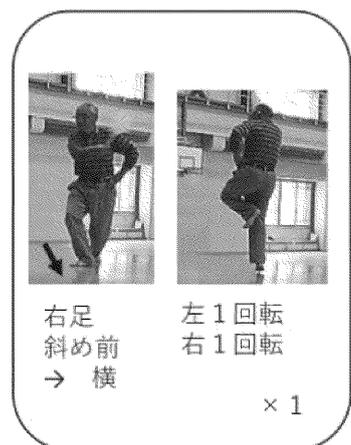
【舞おさめ】 3



ダガダガスコダガスコダッタ ダガダ ダガダ (ダッコン)
ダガダガスコダッタガダットン
ダガダガスコダッタガダットン
ダガダガスコダッタガダットン ダガダガダガダ
ダガダガスコダガスコダッタ ダガダ

せんや～は～は 打つより早く 神が集まる
神が集まるよほ～

【舞おさめ】 2



ダガダ (ダッコン)
ダガダガダガダ

おも～しろやほ～

【舞おさめ】 2



右足斜め前 → 横 左1回転 右1回転
 右手開く

× 3

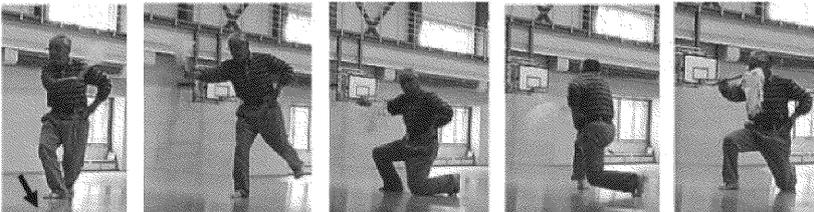
ダガダガスコ ダガスコダッタ ダガダ ダガダ (ダッコン)
 ダガダダガダ (ダッコン) × 3

※ () は間合い

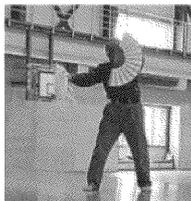
ここ～は や～ 高天原なればほ～ 原なればほ～

【舞おさめ】 4

【構え】



右足斜め前 右手前、右足踏み出し 右1回転 首を振る
 →横 右足戻して
 右手開く 左1回転しひざをつく



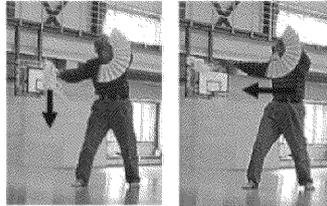
右手に幣束
 左手に扇を広げて持つ

ダガダガスコダガスコダッタ ダガダットン ダガダットン
 ダガダットン ダガスコダン
 カツカラカ ダガスコダン カツカラカ
 ダガスコダガスコダッタガダガスコ ダガスコ ダガスコスコダン

コダッコンダ コダッコンダ
 ダガダダガ ダガダダガ
 ダガダガダドンダガダ
 ダッタガダガダ ドンダガダ
 ダガダガスコダッタ
 ドンダガスコスコダ

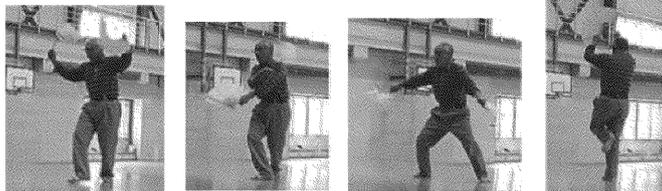
とやさ～ とやさ～

【扇舞おさめ (=舞おさめ+扇) 1】 【扇舞おさめ 2】



右手に幣束 左手は扇
右手伸ばし下へ、右へ

× 6



左右の手を交差
右足斜め前 → 横

手を広げ

左1回転
右1回転

× 3

〈太鼓〉

ダガダガスコ ダガスコダッタ
ダガダ ダガダ (ダッコン)
ダガダガダガダ (ダッコン) × 3

〈歌〉 せんやは～は～
ここはどこほ～

ここ～はや～ 高天原なればほ～ 原なればほ～
原なればほ～

※ 歌詞は変わることも多い

【休憩】

【くずし】



待つ
(幣束立てる)



(構え)
右手のばし
左手の上に

右手頭の上
から回す

右手上下
右足を横に出し前に戻す

立ち上がる

× 6

〈太鼓〉 寄せ太鼓

ダンツコ ダガスコ
ダガダガダガスコ
ダンツコ ダガスコ
ダガダガダガスコ
ダンツコ ダガスコ
ダッタガダットンダ
コンコン ダガダ

ダンツコダガスコダガダガダ × 6
ダンツコ
ダガスコ
ダガダガダ

〈歌〉 せんや～は～は
とやまにさいた
さかきわかもと
さかきわかもと
よほ～
おもしろやほ～

せんや～は～は ハイ

おも～しろやほ～

【扇舞おさめ 3】



左足前に左半回転
右1回転
左半回転
右1回転
左1回転
右1回転

ダガダガスコ ダガスコダッタ
ダガダ ダガダ (ダッコン)
ダガダガスコダッタガダットン
ダガダガスコダッタガダットン
ダガダガスコダッタガダットン
ダガダガダガダ

や～は～は打つより早く
神が集まる 神が集まるよほ～

【扇舞おさめ 2】



右足斜め前→横
左1回転
右1回転

ダガダガスコ
ダガスコダッタ ダガダ
ダガダ (ダッコン)
ダガダガダガダ
(ダッコン) × 3

おも～しろやほ～

【扇舞おさめ 4】



右足斜め前
→横
右足踏み出し
戻って
左1回転し
ひざをつく
右1回転
首を振る

ダガダガスコダガスコダッタ ダガダットン
ダガダットン ダガダットン ダガスコダン
カッカラカ ダガスコダン カツカラカ
ダガスコダガスコダッタガダガスコ
ダガスコ ダガスコスコダン

とやさ～ とやさ～

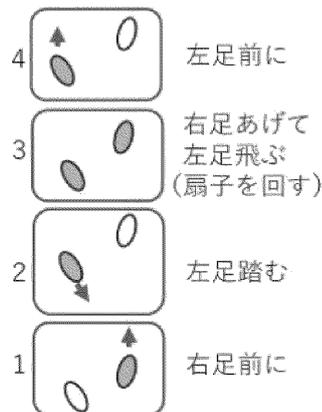
【わたり 回転】



右手幣束
上げ下げ
左扇を下から上にあげ
回して胸元
左足を中心に
右1回転
× 2

ダンツコ ダガスコ ダッタガダ
ダンツコ ダガスコ ダッタガダ
ダンツコ ダガスコ ダガダガダガダ

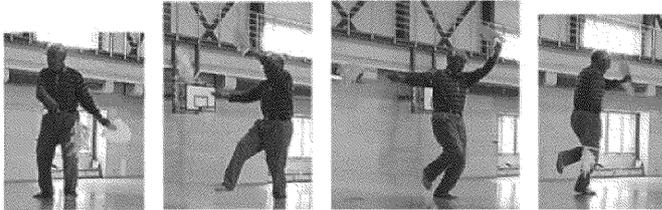
【わたり 前進】



ダンツコ
ダガスコ
ダッタガダ

せんや～は～は
七重も八重も重ね重ねに
重ね重ねにや～ほ～
おもしろやほ～

【わたり 回転】 【わたり 前進】



両手 右足あげ 左手上げ
左から右 左足で前へ 左片足で左回り



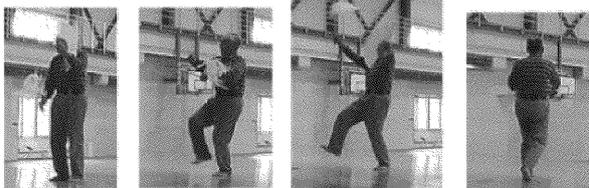
ダンツコダットン ダンツコダットン
ダダン ダンツコダッタ

ダンツコ ダガスコ
ダッタガダ ダンツコ
ダガスコ ダッタガダ
ダンツコ ダガスコ
ダガダガダガダ

ヨイトコリヤ ヨイトコリヤ ヨイ ヨイ ヨイトコリヤ

せんや～は～は
天飛ぶ鳥が羽を
のすよに
羽をのすように
よ～ほ～
おもしろやほ～

【わたり 回転】 【わたり 前進】



両手 両手外から内
互い違いに 内から外
前で上下 前に大きく踏み出し右回り×2



ダッタガダン
ダガスコダガスコダットンダ×7

ダンツコ ダガスコ
ダッタガダ
ダンツコ ダガスコ
ダッタガダ
ダンツコ ダガスコ
ダガダガダガダ

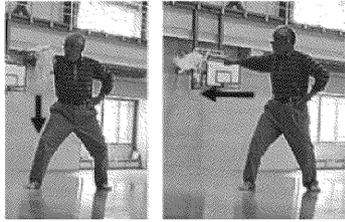
ヤ～ハ～ハ 調子を揃え 歌こそ揃え
歌こそ揃え ヤ～ハ～ハ おもしろ ヤ～ハ～ハ

せんや～は～は
七重も八重も重ね重ねに
重ね重ねにや～ほ～
おもしろやほ～

【構え】



【舞おさめ】 1



【舞おさめ】 2



〈太鼓〉 コダッ コダッ
 コダッコダッタ
 ドンダガダ
 ダッタガダガダ
 ドンダガダ
 ダガダガスコダッタ
 ドンダガダスコスコダ

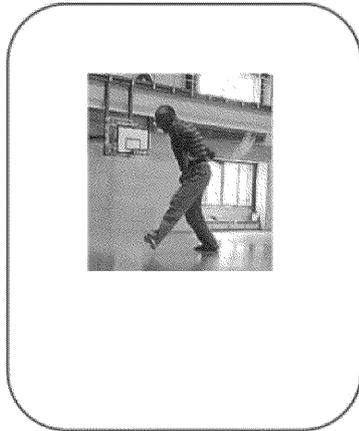
〈歌〉

せんやは～は～
 ここはどこほ～

ダガダガスコ ダガスコダッタ
 ダガダ ダガダ (ダッコン)
 ダガダガダガダ (ダッコン)
 × 3

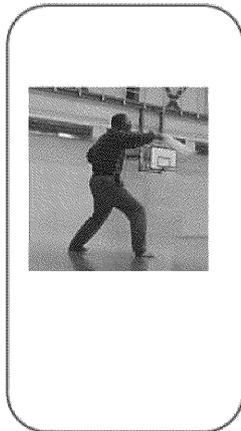
ここ～はや～ 高天原なればほ～
 原なればほ～

【舞おさめ】 3

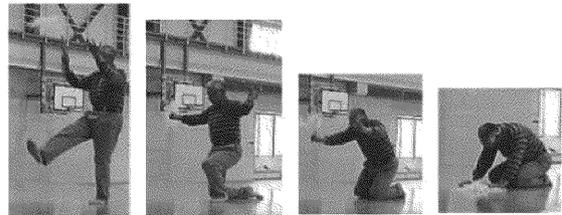


ダガダガスコ ダガスコダッタ
 ダガダ、ダガダ (ダッコン)
 ダガダガスコダッタガダットン
 ダガダガスコダッタガダットン
 ダガダガスコダッタガダットン
 ダガダガダガダ
 ダガダガスコダガスコダッタ
 ダガダ

【舞おさめ】 2



【おじぎ】



両手あげ左足踏み出し
 右足を蹴り出して
 後ろにひきひざをつく 正座して手をつく

ダガダガスコダガスコダッタ ダガダットン
 ダガダットン ダガダ ダガダ ダガダ
 ダガダットン ダットン ダットン ダガ
 ダットンダ ドン ドン ダガダ

〈歌〉 せんや～は～は打つより早く おも～しろやほ～
 神が集まる 神が集まるよほ～

踊り編集 : 花泉小学校に鶏舞を教える会 (代表: 阿部良)
 太鼓・口唱歌作成 : 千葉良夫

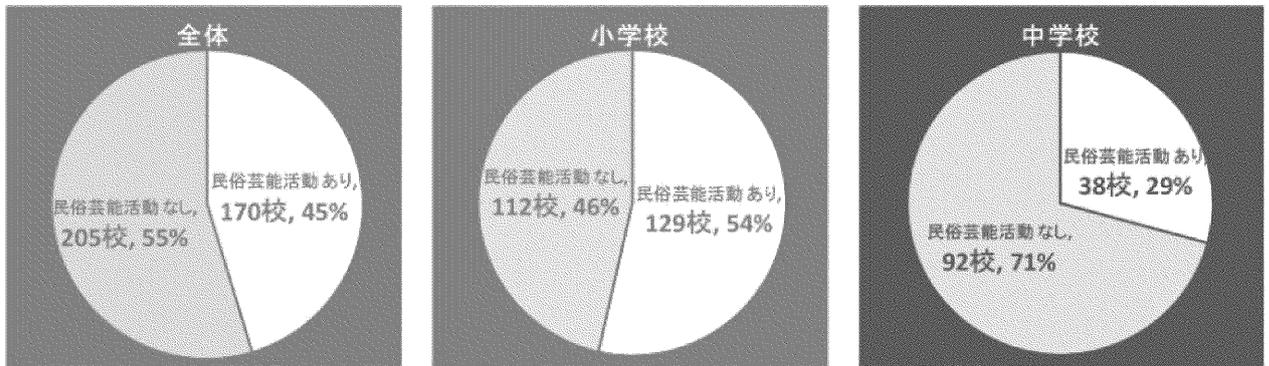
岩手県文化スポーツ部文化振興課作成

岩手県 市町村立小中学校民俗芸能活動調査抜粋(令和6年度調査)

対象：岩手県内の市町村立小中学校 408校
 回答数：375校
 回答率：91.9%
 実施時：令和6年10～12月
 実施方：「FORMS」を利用したアンケート調査

1 学校における民俗芸能への取組

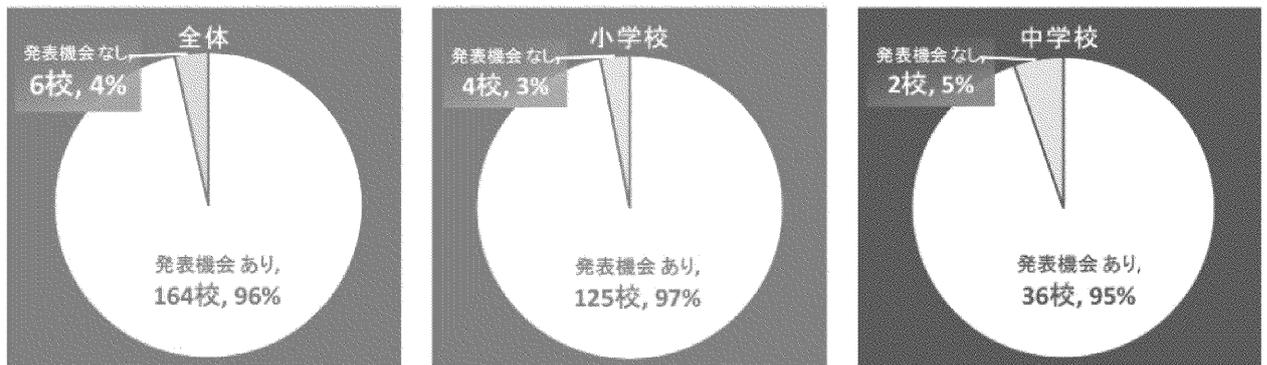
(1) 学校として主体的に取り組んでいる民俗芸能活動の有無



※学校種別未回答の学校があるため、全体と小学校・中学校の合計は一致しない。

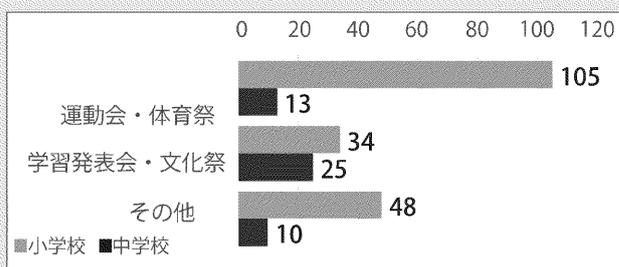
2 民俗芸能の発表機会

(1) 発表機会の有無



※学校種別未回答の学校があるため、全体と小学校・中学校の合計は一致しない。

(2) 主な発表機会(複数回答、重複あり)



■「その他」の内訳(抜粋)

- ・6年生を送る会
- ・引継ぎ式
- ・学校公開、授業参観、学習参観
- ・地域の祭りや運動会
- ・郷土芸能祭、芸能発表会
- ・福祉施設等訪問 など

※その他の行事等については、複数取り組んでいる場合も1校につき1件として集計

■ 調査結果集計表

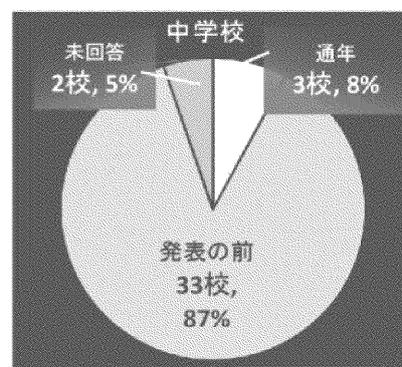
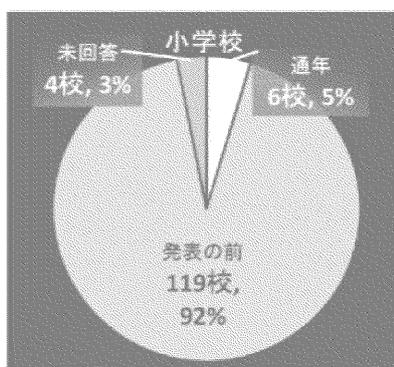
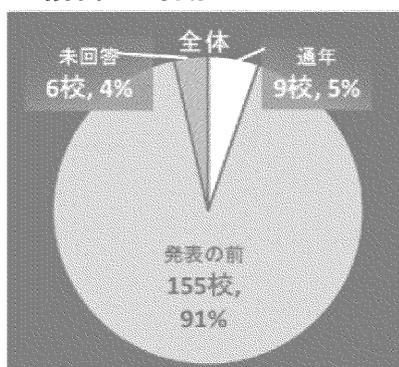
学校種別	市町村立 学校数 (※3)	回答数	回答率	民俗芸能活動		発表機会					稽古の時期			部活動	
				あり	なし	あり	運動会・ 体育祭	学習発表 会・	その他	なし	通年 実施	発表 の前	未回答	あり	なし
小学校	265	241	90.9%	129校	112校	125校	105	34	48	4校	6校	119校	4校	11校	118校
中学校	142	130	91.5%	38校	92校	36校	13	25	10	2校	3校	33校	2校	3校	35校
その他(※1)	1	1	100.0%		1校										
未回答(※2)	-	3	-	3校		3校	3		58			3校			3校
合計	408	375	91.9%	170校	205校	164校	121	59	116	6校	9校	155校	6校	14校	156校

※1 義務教育学校（大槌学園）。

※2 未回答の学校については、集計の便宜上、学校種別集計からは除き全体集計にのみ含む。

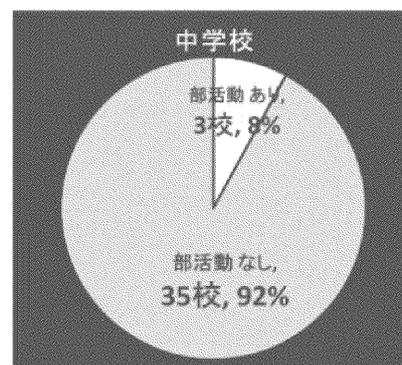
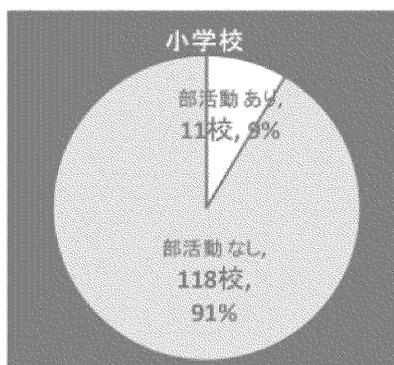
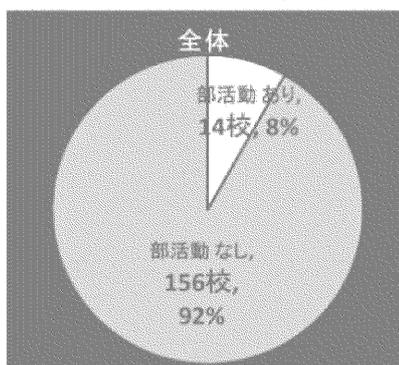
※3 休校中の学校は除く。

3 稽古の時期



※学校種別未回答の学校があるため、全体と小学校・中学校の合計は一致しない。

4 民俗芸能に取り組む部活動の有無



※学校種別未回答の学校があるため、全体と小学校・中学校の合計は一致しない。

藤沢町子ども郷土芸能発表会 プログラム

昭和54年(1979)年度から旧藤沢町において青少年地域活動事業として神楽継承の取り組みが始まり、昭和54年度は大籠小学校の児童が大籠倭神楽、55年度は新沼小学校児童が増沢神楽、56年度には藤沢小学校の本郷地区児童が本郷神楽に取り組み、それぞれ発表を行った。その取り組みが学校や地域で好評を得たため、昭和57年(1982)年度から藤沢町子ども郷土芸能発表会が始まったという(第1回プログラムより)。

この発表会は藤沢地域の子供の郷土芸能活動の大きな励みとなり、小学校での伝承活動にも影響を与えてきた重要な取り組みである。

プログラムが散逸しており、限られた年度しか残っていないが、データを掲載することで不明分のプログラムの提供を呼びかけるものである。



第1回

昭和58年2月20日(日)

大籠倭神楽保存会(大籠小学校)(鶏舞)
 本郷神楽保存会(藤沢小学校)(天の岩戸
 開き 鶏舞、天人舞を含む)
 増沢神楽保存会(新沼小学校)(鶏舞)
 増沢神楽保存会(新沼小学校)(女舞)
 大籠倭神楽保存会(大籠小学校)(楠公父
 子の別れ)
 大籠倭神楽保存会(大籠小学校)(山の葉舞)
 本郷神楽保存会(天下り(サンヤ舞))
 増沢神楽保存会(信田之森)

第17回

平成11年1月17日(日)

本郷神楽保存会(天の岩戸開き)
 増沢神楽保存会(増沢鶏舞)
 保呂羽子どもばやし(保呂羽ばやし)
 大籠南部神楽(大籠鶏舞)
 徳田田植え踊り保存会(徳田田植え踊り)
 黄海神楽(黄海鶏舞)
 藤沢ばやし(道中ばやし 外)

大籠南部神楽(湊川合戦)

増沢神楽保存会(信之田森)

第18回

平成12年1月16日(日)

増沢神楽保存会(鶏舞)
 保呂羽子どもばやし(保呂羽ばやし)
 大籠南部神楽(鶏舞)
 徳田田植え踊り保存会(徳田田植え踊り)
 黄海神楽(黄海鶏舞)
 大籠南部神楽(湊川の合戦)
 第31区子供会(藤沢ばやし)
 増沢神楽保存会(信之田森)
 本郷神楽保存会(天の岩戸開き)

第19回

平成13年1月14日(日)

保呂羽子どもばやし(保呂羽ばやし)
 大籠文化スポーツ少年団(鶏舞)
 徳田田植え踊り保存会(徳田田植え踊り)
 増沢神楽保存会(鶏舞)

黄海神楽(黄海鶏舞)
 大籠文化スポーツ少年団(湊川の合戦)
 第31区子供会(藤沢ばやし)
 増沢神楽保存会(五條の橋/信之田森)
 本郷神楽保存会(天の岩戸開き)

第20回

平成14年1月14日(月)

保呂羽子どもばやし(保呂羽ばやし)
 本郷神楽保存会(天の岩戸開き)
 大籠文化スポーツ少年団(鶏舞)
 徳田田植え踊り保存会(徳田田植え踊り)
 増沢神楽保存会(鶏舞)
 黄海小学校(鶏舞)
 第31区子供会(藤沢ばやし)
 大籠文化スポーツ少年団(湊川の合戦)
 増沢神楽保存会(五大領四節分)

第21回

平成15年1月12日(日)

保呂羽子どもばやし(保呂羽ばやし)
 大籠文化スポーツ少年団(鶏舞)
 徳田田植え踊り保存会(徳田田植え踊り)
 増沢神楽保存会(鶏舞)
 黄海小学校(鶏舞)
 大籠文化スポーツ少年団(湊川の合戦)
 藤沢ばやし保存会(藤沢ばやし)
 増沢神楽保存会(信之田の森)
 本郷神楽保存会(天の岩戸開き)

第22回

平成16年1月11日(日)

藤沢ばやし保存会(藤沢ばやし)
 徳田田植え踊り保存会(徳田田植え踊り)
 増沢神楽保存会(鶏舞)
 黄海小学校(鶏舞)
 保呂羽子どもばやし(保呂羽ばやし)

大籠文化スポーツ少年団(鶏舞)
 増沢神楽保存会(五大領四節分)
 本郷神楽保存会(天の岩戸開き)
 大籠文化スポーツ少年団(湊川の合戦)

第23回

平成17年1月9日(日)

藤沢ばやし保存会(藤沢ばやし)
 増沢神楽保存会(鶏舞)
 黄海源大鶏舞継承会(鶏舞)
 大籠文化スポーツ少年団(鶏舞)
 増沢神楽保存会(五大領四節分)
 本郷神楽保存会(天の岩戸開き)
 大籠文化スポーツ少年団(湊川の合戦)
 徳田田植え踊り保存会(徳田田植え踊り)

第24回

平成18年1月8日(日)

藤沢ばやし保存会(藤沢ばやし)
 黄海源大鶏舞継承会(鶏舞)
 大籠文化スポーツ少年団(鶏舞)
 増沢神楽保存会(鶏舞)
 西口地区自治会協議会(おいとこ)
 本郷神楽保存会(天の岩戸開き)
 大籠文化スポーツ少年団(湊川の合戦)
 徳田田植え踊り保存会(徳田田植え踊り)
 増沢神楽保存会(信之田森)

第26回

平成20年1月6日(日)

藤沢ばやし保存会(藤沢ばやし)
 西口おいとこ子ども会
 (西口地区自治会協議会)(おいとこ)
 増沢神楽保存会(鶏舞)
 本郷神楽保存会(天の岩戸開き)
 大籠小学校PTA(湊川の合戦)
 徳田田植え踊り保存会(徳田田植え踊り)

増沢神楽保存会(五大領四節分)
 黄海源大鶏舞継承会(鶏舞)

本郷神楽保存会(天の岩戸開き)
 増沢神楽保存会(五大領四節分)
 徳田田植え踊り保存会(徳田田植え踊り)

第27回

平成21年1月11日(日)

藤沢ばやし保存会(藤沢ばやし)
 西口おいとこ子ども会
 (西口地区自治会協議会)(おいとこ)
 本郷神楽保存会(天の岩戸開き)
 増沢神楽保存会(鶏舞)
 下大籠南部神楽保存会
 (大籠小学校PTA)(湊川の合戦)
 徳田田植え踊り保存会(徳田田植え踊り)
 増沢神楽保存会(五大領四節分)
 黄海源大鶏舞継承会(鶏舞)

第30回

平成24年1月8日(日)

藤沢ばやし保存会(藤沢ばやし)
 徳田田植え踊り保存会(徳田田植え踊り)
 増沢神楽保存会(鶏舞)
 黄海源大鶏舞継承会(鶏舞)
 下大籠南部神楽保存会(鶏舞)
 本郷神楽保存会(天の岩戸開き)
 増沢神楽保存会(五大領四節分)
 下大籠南部神楽保存会(湊川の合戦)

第28回

平成22年1月10日(日)

藤沢ばやし保存会(藤沢ばやし)
 黄海源大鶏舞継承会(鶏舞)
 西口おいとこ子ども会
 (西口地区自治会協議会)(おいとこ)
 本郷神楽保存会(天の岩戸開き)
 増沢神楽保存会(鶏舞)
 下大籠南部神楽保存会(鶏舞)
 下大籠南部神楽保存会(湊川の合戦)
 徳田田植え踊り保存会(徳田田植え踊り)
 増沢神楽保存会(五大領四節分)

第31回

平成25年1月13日(日)

藤沢ばやし保存会(藤沢ばやし)
 徳田田植え踊り保存会(徳田田植え踊り)
 増沢神楽保存会(鶏舞)
 黄海源大鶏舞継承会(鶏舞)
 下大籠南部神楽保存会
 (楠正成桜井の駅の子別れ湊川の合戦)
 本郷神楽保存会(天の岩戸開き)
 増沢神楽保存会(五大領四節分)

第29回

平成23年1月9日(日)

藤沢ばやし保存会(藤沢ばやし)
 増沢神楽保存会(鶏舞)
 黄海源大鶏舞継承会(鶏舞)
 西口おいとこ子ども会
 (西口地区自治会協議会)(おいとこ)
 下大籠南部神楽保存会(鶏舞)

第32回

平成26年1月12日(日)

増沢神楽保存会(鶏舞)
 藤沢ばやし保存会(藤沢ばやし)
 下大籠南部神楽保存会(岩戸入り)
 徳田田植え踊り保存会(徳田田植え踊り)
 増沢神楽保存会(信田の森)
 黄海源大鶏舞継承会(鶏舞)
 下大籠南部神楽保存会(楠公)
 本郷神楽保存会(天の岩戸開き及び鶏舞)

第33回**平成27年1月11日(日)**

本郷神楽保存会(天の岩戸開き及び鶏舞)
 増沢神楽保存会(鶏舞)
 藤沢ばやし保存会(藤沢ばやし)
 徳田田植え踊り保存会(徳田田植え踊り)
 増沢神楽保存会(信田の森)
 黄海源大鶏舞継承会(鶏舞)
 下大籠南部神楽保存会
 (牛若丸～常磐御前～鞍馬山の部～)

第38回**令和2年1月12日(日)**

藤沢ばやし保存会(藤沢ばやし)
 徳田田植え踊り保存会(徳田田植え踊り)
 永井地区郷土芸能伝承保存会
 (おはやしと獅子舞)
 増沢神楽保存会(鶏舞)
 黄海源大鶏舞継承会(鶏舞)
 本郷神楽保存会(水明神神舞)
 増沢神楽保存会(五大領四節分)

第40回**令和4年1月9日(日)**

増沢神楽保存会(鶏舞)
 藤沢ばやし保存会(藤沢ばやし)
 徳田田植え踊り保存会(徳田田植え踊り)
 永井地区郷土芸能伝承保存会(鶏舞)
 増沢神楽保存会(五大領四節分)
 下大籠南部神楽保存会(五條の橋)
 黄海源大鶏舞継承会(鶏舞)
 本郷神楽保存会(鶏舞)

第41回**令和5年1月15日(日)**

本郷神楽保存会(翁舞)
 徳田田植え踊り保存会(徳田田植え踊り)

増沢神楽保存会(鶏舞)

下大籠南部神楽保存会(楠公 湊川の戦い)

黄海源大鶏舞継承会(鶏舞)

本郷神楽保存会(鶏舞)

増沢神楽保存会(五大領四節分)

第42回**令和6年1月14日(日)**

下大籠南部神楽保存会(岩戸入り・くずし舞)
 増沢神楽保存会(信田の森)
 本郷神楽保存会(翁舞)
 黄海源大鶏舞継承会(鶏舞)
 本郷神楽保存会(天人舞)
 藤沢ばやし保存会(藤沢ばやし)
 徳田田植え踊り保存会(徳田田植え踊り)
 本郷神楽保存会(鶏舞)
 増沢神楽保存会(鶏舞)

第43回**令和7年1月19日(日)**

黄海源大鶏舞継承会(鶏舞)
 本郷神楽っ子(天の岩戸開き)
 徳田田植え踊り保存会(徳田田植え踊り)
 増沢神楽保存会(鶏舞)
 下大籠南部神楽保存会(岩戸入り)
 藤沢ばやし保存会(藤沢ばやし)
 増沢神楽保存会(信田の森)

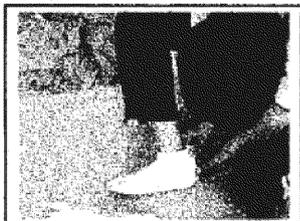


第42回発表会 2024年

永井小学校 着付けの配布プリント

鶏舞の着付け

①足袋をはきます



⑤黄色の帯を締めます



完成です

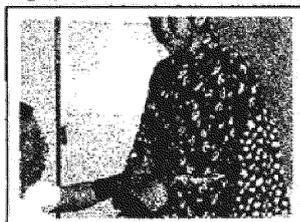
②襦袢を着ます



⑥赤いたすきを結びます



③帯を締めます



⑦手拭いをかぶります



ポイント



黄色・赤の帯はたたみません



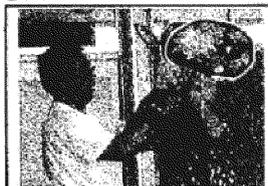
膏は四つ折です

④袴をはきます



前から合わせます

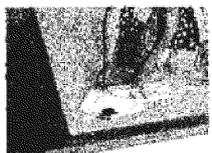
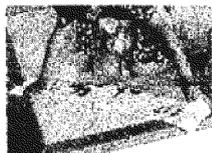
⑧鶏かぶとをかぶります



《手拭いのたたみ方》

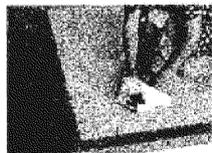
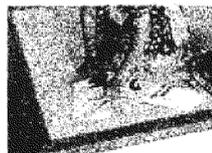
①二つに折ります

④ひっくり返す



②斜めに折ります

⑤はみ出ているところを中に



③三角にします

⑥完成



⑨青い帯で締めます



後ろを合わせます

⑨青い帯で締めます



ギュッと強く！！

※ 白黒で申し訳ありませんが、参考にしてください。(当日体育館にはカラー印刷したものを貼ります。)

着物のたたみ方

背中側は平らに伸ばし、左に持、右に裾がくるように置き、下前の次に上前を畳ねます。

画用紙を、えりに重ねて図2のように置きます。

下前側の脇端が襟線の中央にくるように折ります。裾は折り返しておきます。

上前側の脇端を下前側脇端につき合わせ、袖を折り返します。

畳紙のサイズに合わせて、2~3つ折りします。

はかまのたたみ方

1. 裾(裾も)とまを仕切っているものを袴の股から手を入れて右に寄せる。これをやるかやらないかで、以後の作業の効率やたたみ上がり、さらには今後の扱いやすさ(ひだが崩れないとか、裏などところに線が付かないなど)に差が出ます。

2. 後ろ向きに床(畳紙やそれに代わるものの上)に置き、後ろのひだを揃えて重ね、しわを伸ばして裾を揃える。(ひだは裾で整えた後、上下を持って引っ張って揃え、平のしで平らにならす)

3. 揃えた後ろのひだが崩れないように裏に返し、前のひだを2回横に整える。この時に平面にならないようなら、中の襷(たぶ)がズレているので、裾から手を入れてきちんと整える。左右10cm位を内側に折りたたむ。

白い画用紙
※ はかまの 図の位置に白い画用紙をのせる。
のせたら点線部分を内側に折りたたむ。

4. 裾が崩れないよう3分の1折りたたむ。

5. 残り3分の1を折りたたむ。

6. 襷ひもの袖まに揃えます。

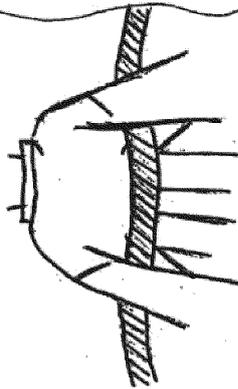
一関東中学校 着付けの配布プリント (真滝地区)

とび舞の着付けのポイント《真滝》

襦袢と袴をつけた後の たすき等のかけ方を紹介します。

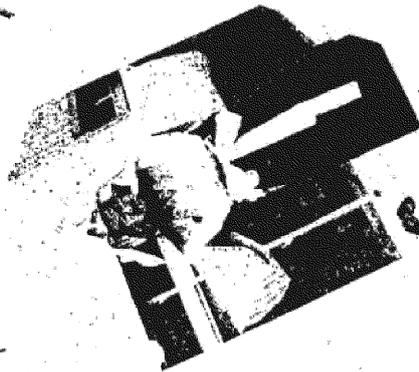
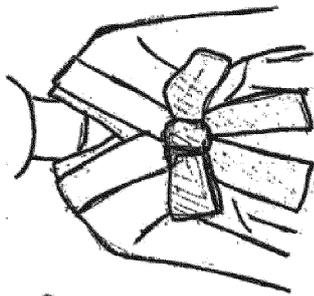
1 黄色の布

- ① 4つに折りたたむ。
- ② 腰回りを抑えるように後ろから前に布を持ってくる。



③ 正面で蝶結びをする。

(ひもが短い時は工夫して)



完成
前から見た姿
てーす。

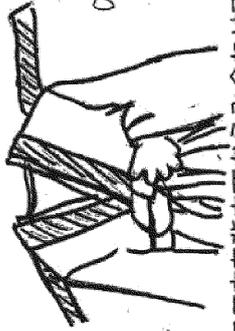
☆黄色の布のおび、次に紺色の布のタスキ...の着付け。

2 水色の布

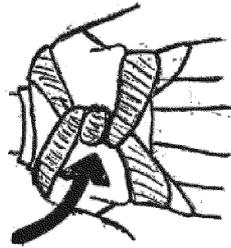
- ① 4つに折りたたむ

② 布の半分の長さの所を胸前で

「V字」に折り、手で押さえる。

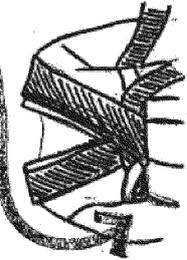


- ③ 後ろに回した二本を背中から組み合わせ、2~3回交差させてから、前に持ってくる。



④ 先に結んだ、黄色の布や袴の紐に「ひとからめ」

してから正面のちよっとわきで結ぶ。

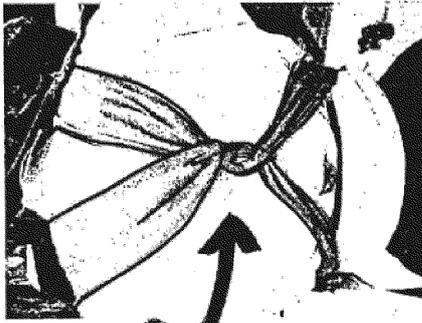


3 赤色の布

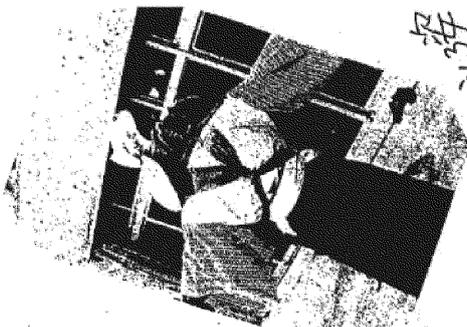
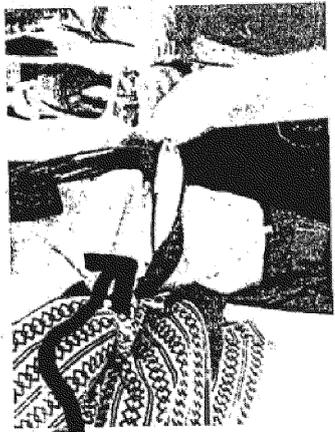
- ① 兜をかぶり結ぶ。
- ② 布を四つ折りたたむ。
- ③ 兜の上から赤い布を

巻き、うしろ側で蝶結びにする。

(おびが長い)
を折る。



完成...
2~3回の
からめ合せ
(交差)が
背中の安定感を
生み出す!



(弥栄地区)

運動会 弥栄地区鶏舞 着付けの仕方《基本形》

ご家庭で準備するもの・・・白足袋、襦袢、褌袴を止めるひも、やわらかい帯、豆絞りの手ぬぐい

(1) 足袋をはく。

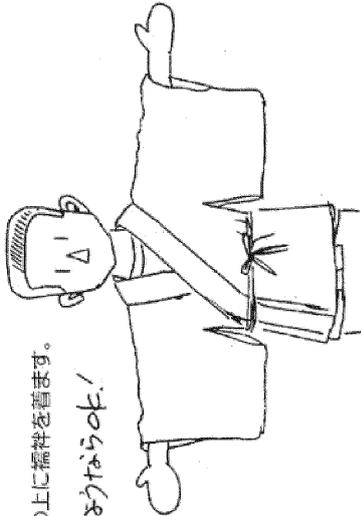


(2) 襦袢を着る。

① Tシャツ、ハーフパンツの上に襦袢を着ます。

◎ 右がふとろに入まうならok!

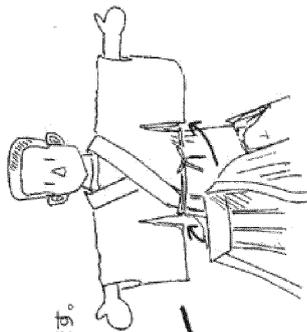
② 家から持ってきたひもで、襦袢を押さええます。



(3) はかまをはく。

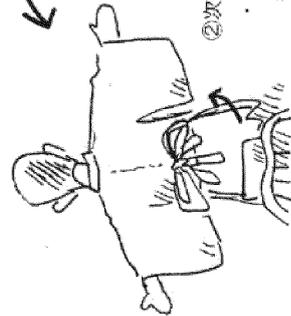
① はかまのはき口を広げて、前側から結びます。

・ひもは、最後後ろでしっかりと結びます。



② 次は、はかまの後ろ側を結びます。

・はかま前側の結んだひもに、ひっかけるように後ろ側のはかまをかけて、ひもは前側で結びます。

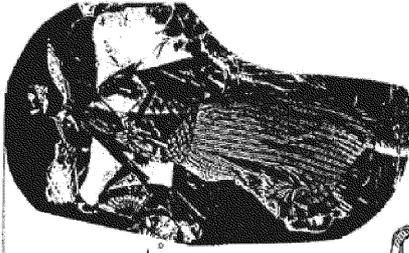


(4) 腰にひもを巻く。

① 「黄色の布」を縦長に4つ折りにします。

② 「黄色の布」を腰の部分に巻いて、前で結びます。

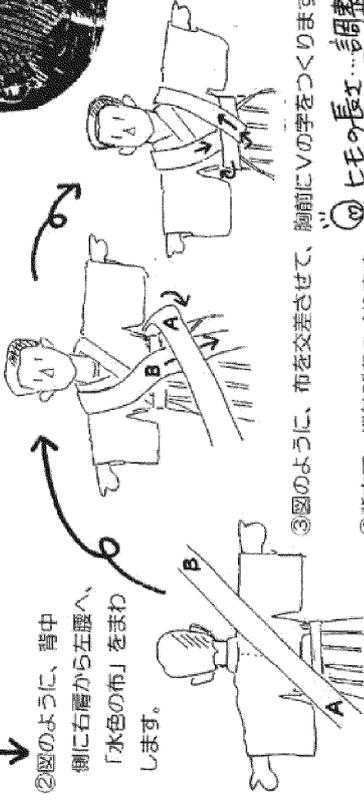
③ 次に、家から持ってきた「ふわふわの帯」を黄色の布の上に結びます。



(5) たすきをかける。

① 「水色の布」を縦長に4つ折りにします。

② 図のように、背中側に右肩から左腰へ「水色の布」をまわします。



③ 図のように、布を交差させて、胸前にVの字をつくります。

④ 背中、蝶結びをつくります。◎ ヒモの長さ調整 工夫下さい。

(6) かぶと・鈴付き手甲・わらじをはく。

【かぶと】① 豆絞りの手ぬぐいをかぶります。

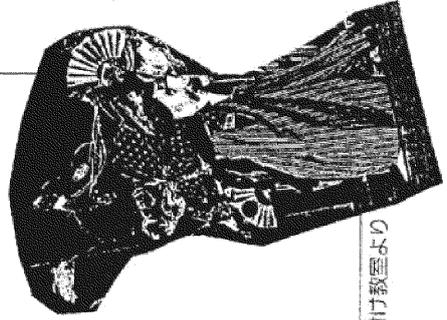
② かぶとをかぶり、後ろで結びます。

③ 「赤い布」を縦長に4つ折りにして、かぶとを押さえるように頭に巻いて、後ろで結びます。

【鈴付き手甲】① ゴムを指にかけ、ひもを手首に巻いて、手甲を止めます。(両手)

【わらじ】① わらじをはきます。

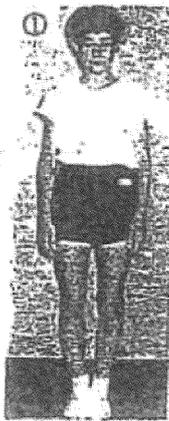
(抜けやすい人は、各自工夫して下さい。)



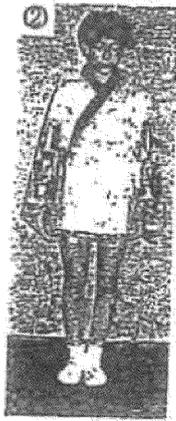
平成 26 年度 弥栄鶏舞 中文祭着付け教室より

萩荘中学校 着付けの配布プリント

舞衣装の着る順序



① 足袋をはく



② 肌ことぬぎだれの袖ひもを結び重ねて着せ、帯は一枚づつあわせ



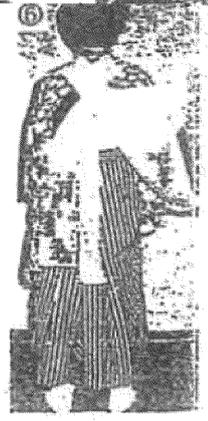
③ 腰板のある方を後ろに袴をはきひもは後から結ぶ、袴の前ひもは後ろで



④ 交差し、前でイボ結びにして後ろで結ぶ、ぬぎだれをぬぐ

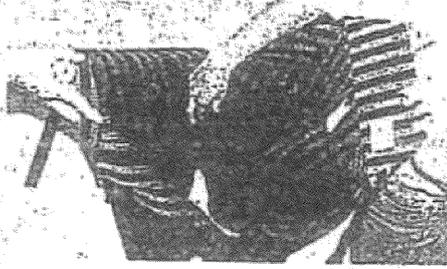


⑤ たすきの長さのひもを袖のひもに通し前へ掛ける



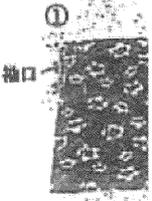
⑥ ぬぎだれの袖の下を通し、腰に巻き付け後ろへまわす

袴のたたみ方

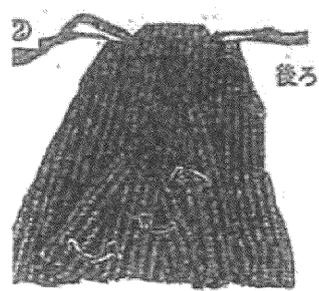


① 袴の腰板をおごにはさみ股の部分を縫い目方向に折り畳める。後ろを上向きに高く

肌ことぬぎだれ このたたみ方



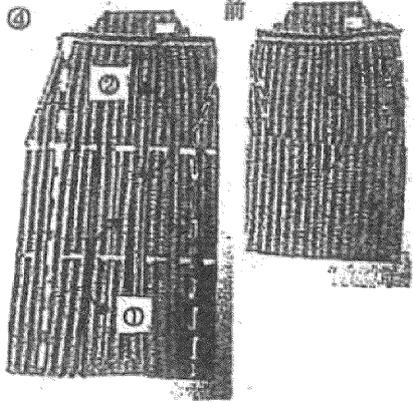
① 袖口



② 後ろ

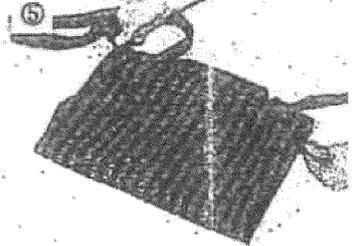


③ ②で畳んだ後のヒダをこわさない様に引っ張り返す

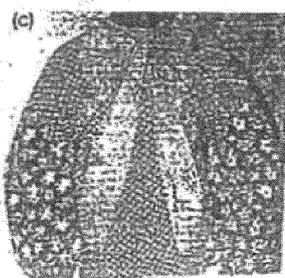
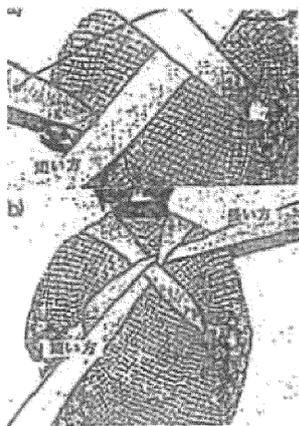


④ 前

④ 前も後ろ同様中心からヒダをたたむ。両端を折り筋から二つにたたむ。後ろ袴の腰板を上に出す



⑤ ④下にある前ひもの縫わり部分はひも幅分、向こう側に折り込む



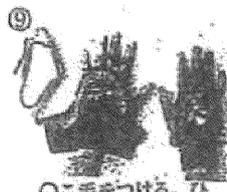
(a) ×印になる様に交差させる
 (b) 短いすきの下を通しからませる
 (c) 長さを同じにし縫結びにする。端は全部ひろげる



○前板をつける。腰帯は前板を包み込むように縫結に結ぶ。たすき肉紐は全部広げる



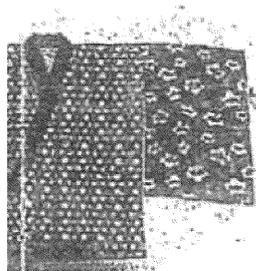
○手ぬぐいをかぶる



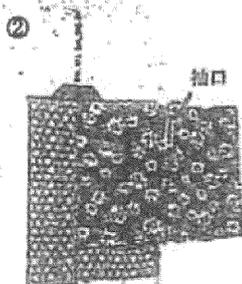
○こ手をつける。ひもは小指側にくるように



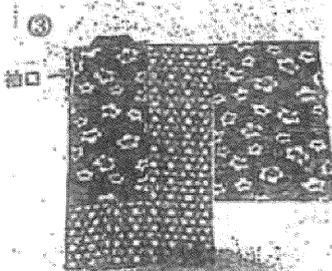
○ひもをつける



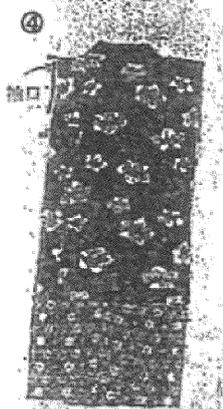
○左側にあわせる



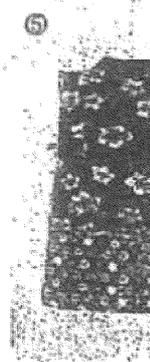
○わきを背中心にあわせる



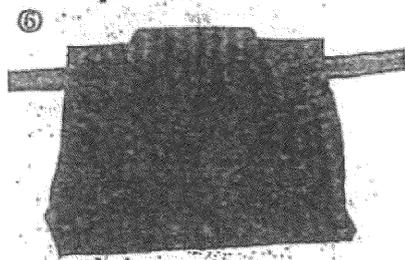
○袖を折り返す



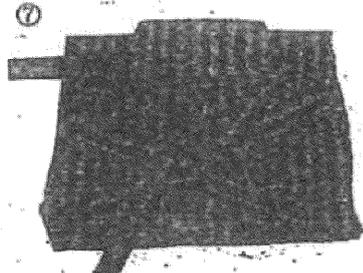
○2③と同じ



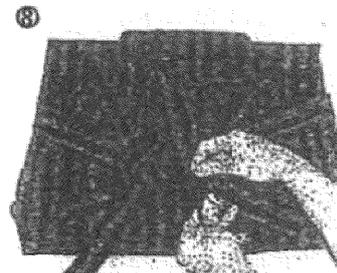
○すそを袖長さり返す



○⑤で折ったひもは写真のように等分して内側にたたむ

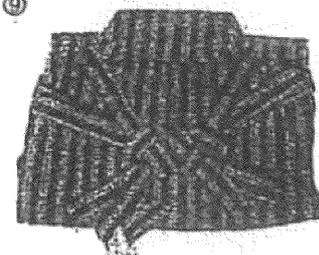
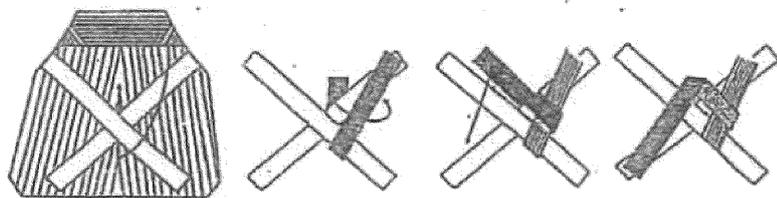


○後ろひもで図のように結ぶ



○もう片方も同じように結び、最後に先端のひもに返す。

○



○ひもの余った分があったら内側に折り返す

参考引用文献

- 相川小学校閉校事業実行委員会(編)『あいかわ相川小学校閉校記念誌』1995
- 一関市立薄衣小学校閉校記念事業実行委員会記念誌部会(編)『いずみ一関市立薄衣小学校閉校記念誌』2013
- 一関市立老松小学校創立140周年記念事業実行委員会(編)『創立140周年記念誌』2014
- 一関市立老松小学校閉校事業実行委員会(編)『一関市立老松小学校閉校記念誌』2023
- 一関市立奥玉小学校閉校記念事業実行委員会(編)『あらたま 一関市立奥玉小学校閉校記念誌』2018
- 一関市立折壁小学校閉校記念事業実行委員会記念誌部会(編)『やまびこ 一関市立折壁小学校閉校記念誌』2009
- 一関市立金沢小学校創立40周年記念事業実行委員会記念誌委員会(編)『かざわ 一関市立金沢小学校創立40周年記念誌』2021
- 一関市立門崎小学校閉校記念事業実行委員会(編)『ゆりのき 門崎小学校閉校記念誌』2013
- 一関市立黄海小学校(編)『正しく強く明るく強く進みゆく 一関市立黄海小学校創立150周年記念誌』2024
- 一関市立清田小学校閉校記念事業実行委員会(編)『きよた 一関市清田小学校閉校記念誌』2018
- 一関市立釘子小学校閉校記念実行委員会(編)『くぎこ 閉校記念誌』2009
- 一関市立小梨小学校閉校記念事業実行委員会(編)『五訓 ～ありがとう小梨小学校～』2018
- 一関市立猿沢中学校閉校記念事業実行委員会(編)『よもぎやま 一関市立猿沢中学校閉校記念誌』2014
- 一関市立摺沢小学校閉校記念事業実行委員会(編)『たまほり 一関市立摺沢小学校閉校記念誌』2013
- 一関市立千厩小学校閉校記念事業実行委員会(編)『朝風 一関市立千厩小学校閉校記念誌』2018
- 一関市立田河津小学校閉校記念事業実行委員会(編)『たばしね一関市立田河津小学校閉校記念誌』2014
- 一関市立達古袋小学校閉校事業実行委員会(編)『達古袋』2013
- 一関市立津谷川小学校閉校記念事業実行委員会(編)『河鹿 閉校記念誌』2009
- 一関市立永井小学校閉校記念誌部会(編)『ながい 一関市立永井小学校閉校記念誌』1985
- 一関市立中川小学校閉校記念事業中川連絡協議会(編)『ごてんやま 中川小学校 中川小学校閉校記念誌』2006
- 一関市立中里中学校閉校記念事業実行委員会(編)『一関市立中里中学校閉校記念誌 明日への飛躍』2015
- 一関市立新沼小学校(編)『一関市立新沼小学校創立150周年記念並びに閉校記念誌 あしなみ』2023
- 一関市立浜横沢小学校閉校記念事業実行委員会(編)『あたご 一関市立浜横沢小学校閉校記念誌』2009
- 一関市立日形小学校閉校記念行事実行委員会(編)『ひかた 日形小学校閉校記念誌』2015
- 一関市立弥栄中学校創立50周年記念事業実行委員会(編)『創立50周年記念誌 いやさか』1997
- 一関市立弥栄中学校閉校記念事業実行委員会 記念誌部会(編)『いやさか一関市立弥栄中学校閉校記念誌』2008
- 一関市立涌津小学校閉校記念事業実行委員会(編)『わくつ 涌津小学校閉校記念誌』2023
- 市野々小学校閉校記念事業実行委員会(編)『堅香子 市野々小学校閉校記念誌』2005
- 亥年小学校閉校記念事業実行委員会記念誌編集委員会(編)『亥年小学校閉校記念誌 閉校記』1983
- 内野小学校閉校記念事業実行委員会(編)『たかもり 内野小学校閉校記念誌』2010
- 丑石小学校記念誌編集委員会(編)『学びの道 丑石小創立百周年記念誌』1985

興田小学校閉校記念事業実行委員会(編)『興田小学校閉校記念誌 おちあい』2006
金沢小学校閉校記念事業実行委員会記念誌委員会(編)『かざわ 一関市立金沢小学校閉校記念誌』2023
上折壁小学校閉校記念事業実行委員会(編)『上小ありがとう一関市立上折壁小学校閉校記念誌』2009
京津畑小学校創立30周年記念事業実行委員(編)『みどり野学舎』1988
京津畑小学校閉校記念事業実行委員会(編)『天狗岩 京津畑小学校記念誌』2006
小池平和『野の人 蜂谷静夫』蜂谷艸平1995
猿沢中学校『あゝ母校 我らの青春 猿沢中学校創立50周年記念誌』1996
渋民小学校閉校記念事業実行委員会(編)『渋民小学校閉校記念誌 明倫』2013
曾慶小学校閉校記念事業実行委員会(編)『一関市立曾慶小学校閉校記念誌 みかげの森』2013
高倉小学校閉校記念事業実行委員会記念誌編集部(編)『花泉町立高倉小学校閉校記念誌 百有余年の追憶』1985
大東町立猿沢小学校校舎改築推進委員会記念(編)『猿沢小学校校舎改築記念誌 猿沢の教育』1988
大東町立渋民小学校(編)『渋民小学校校舎改築落成記念誌』1989
天狗田小学校(編)『天狗田小学校開校120周年記念誌』1993
天狗田小学校閉校記念事業実行委員会(編)『てんぐだ 天狗田小学校閉校記念誌』2006
中里中学校創立50周年記念誌部会(編)『一関市立中里中学校創立50周年記念誌 桃山』1997
新沼小学校創立100周年記念誌編纂委員会(編)『新沼小学校創立100周年記念誌』1974
芳賀哲夫『本寺地区神楽の歴史 付本寺中学校神楽舞踊の沿革史』芳賀哲夫1992
萩荘中学校創立30周年記念誌編集委員会(編)『創立30周年記念誌 一関市立萩荘中学校』1977

花泉町立金沢小学校(編)『かざわ 飛躍 統合十周年記念』花泉町立金沢小学校1991
花泉町立花泉南中学校閉校記念誌編集部(編)『永井よ永遠に 閉校記念誌』2005
花泉町立永井小学校統合10周年記念事業実行委員会(編)『永井小学校統合10年のあゆみ』1994
藤沢町立藤沢中学校創立30周年記念事業実行委員会(編)『記念誌遂志 創立30周年記念誌』1998
藤沢中学校(編)『記念誌遂志 創立20周年記念誌』1988
閉校記念事業実行委員会(編)『藤沢町立大籠小学校記念誌 大峰』2009
閉校記念事業実行委員会(編)『藤沢町立徳田小学校閉校記念誌 とくだ』2009
閉校記念事業実行委員会(編)『藤沢町立藤沢小学校閉校記念誌 いとぞくら』2009
閉校記念事業実行委員会(編)『藤沢町立保呂羽小学校閉校記念誌 雉子川』2009
閉校記念実行委員会(編)『藤沢町立黄海中学校閉校記念誌』2004
本寺小学校・本寺中学校閉校記念事業実行委員会(編)『溪流一関市立本寺中学校閉校記念誌』2018
本寺小学校・本寺中学校閉校記念事業実行委員会(編)『ほんでら一関市立本寺小学校閉校記念誌』2018
真滝中学校創立50周年記念事業実効委員会記念誌編集部(編)『真滝中学校創立50周年記念誌 清新の意気』1997
弥栄小学校閉校記念実行委員会(編)『竹馬の友 弥栄小学校閉校記念誌』1990
山谷小学校創立120周年記念事業実行委員会(編)『記念誌 山谷の教育』1993
涌津小学校創立百周年記念行事実行委員会(編)『涌津小学校百周年記念誌』1973

岩手県一関市文化財調査報告書第11集

一関市民俗芸能調査報告書 学校における取り組み

発行 令和7月31日
発行・編集 一関市教育委員会文化財課
〒029-3105
岩手県一関市花泉町涌津字一ノ町29
電話0191-82-2242
印刷 合同会社 藤
〒021-0061
岩手県一関市山目字館64-123
電話0191-34-7744